

セッション概要

1: 9月11日(火), 2: 9月12日(水), 3: 9月13日(木)

セッションテーマ	日程・会場・番号	
	口頭発表	ポスター発表
	A, B, C, D, E会場	F会場
<特別セッション>		
S1 東アジアの環境と地球化学	2E午前	1P22-23
S2,S3 水-岩石相互作用・二酸化炭素隔離の地球化学	3C午後	2P34-40
S4 ケイ酸およびケイ酸錯体の地球化学	3E午前	なし
S5 生物起源VOCと有機エアロゾル	1E午後	1P15-16
S6 地球化学と生理学・生化学: 生理学的知見からみる地球化学	2C午前	1P20-21
<学会基盤セッション>		
G1 大気微量成分の地球化学	3B午前	2P41-46
G2 古気候・古環境解析の地球化学	1D午前・2D午前	2P01-16
G3 放射性廃棄物と地球化学	1B午後	1P37-41
G4 鉱物境界面の地球化学、水-岩石相互作用	2A午前	1P33-36
G5 海洋における微量元素・同位体	1A午後	1P01-10
G6 炭化水素資源の地球化学・深部炭素循環	1D午後	1P18-19
G7 地球表層水圏と生態系	1E午前	1P17
G8 マントル物質の化学とダイナミクス	1C午前・午後	1P51-52
G9 地球外物質・宇宙惑星化学	3A午前・午後	2P47-53
G10 同位体効果研究の地球化学への応用	3C午前	なし
G11 現世および過去の有機物・微生物・生態系の地球化学	3E午前・午後	2P17-24
G12 水圏環境化学	3D午前	2P26-33
G13 海洋化学・大気水圏(全般)	1A午前	1P11-14
G14 固体地球化学(全般)	1C午後	1P48-50
G15 固体地球における水とその役割	2B午前	1P42-47
G16 地球化学の人文科学への応用	3D午後	2P25
G17 分析化学・物理化学	1B午前	1P24-32

第1日目(9月11日)午前

【A会場】午前

【B会場】午前

セッションG13 海洋化学・大気水圏(全般)

コンピーナ:植松光夫・濱健夫

9:30-9:45 1A01

南北太平洋における海洋大気中窒素化合物の海洋への供給
鄭進永^{1,2}・古谷浩志¹・植松光夫¹(¹東京大大気・海洋研²・ソウル大地球環境科学部)

9:45-10:10 1A02(招待)

北太平洋およびその縁辺海における表面海水中懸濁粒子の粒径と化学組成
○岩本洋子^{1,2}・植松光夫²(¹金沢大環日研セ²・東京大大気海洋研)

10:10-10:25 1A03

EI-PTR-MS法による海水中DMS濃度測定法の検証
大森裕子¹・○谷本浩志¹・猪俣敏¹・亀山宗彦^{2,3}・高尾信太郎²・鈴木光次²
³(¹国環研²・北大院環境³・北大院地球環境)

10:25-10:40 1A04

西部北太平洋亜寒帯域における溶存窒素とアルゴンの混合層直下飽和度の季節変化
○重光雅仁¹・Nicolas Gruber²・山中康裕¹(¹北大院地球環境²・ETH)

<休憩> 10:40-10:55

10:55-11:10 1A05

鹿児島湾奥部海底若草熱水系における熱水活動の地球化学
○山中寿朗¹・金銅和菜¹・石橋純一郎²・長原正人²・三好陽子²・米津幸太郎³・金光隼哉³・野口拓郎⁴・岡村慶⁴・村上浩康⁵・千葉仁¹(¹岡大理²・九大理³・九大工⁴・高知大コア研⁵・産総研地圏資源)

11:10-11:25 1A06

海洋酸性化が微生物群集組成および機能に与える影響 1. 一次生産過程
○鈴木莉紗¹・柏崎啓人¹・井上幸樹¹・和田茂樹¹・緑川 貴^{2,3}・石井雅男²・笹野大輔²・小杉如央²・濱 健夫¹(¹筑波大学生命環境科学研究科²・気象研究所³・現・長崎海洋気象台)

11:25-11:40 1A07

海洋酸性化が微生物群集組成および機能に与える影響 2. 植物プランクトン群集組成
○井上幸樹¹・鈴木莉紗¹・柏崎啓人¹・和田茂樹¹・緑川貴^{2,3}・石井雅男²・笹野大輔²・小杉如央²・濱健夫¹(¹筑波大学生命環境科学研究科²・気象研究所³・現・長崎海洋気象台)

11:40-11:55 1A08

海洋酸性化が微生物群集組成および機能に与える影響 3. 蛍光性溶存態有機物生成過程
○柏崎啓人¹・鈴木莉紗¹・井上幸樹¹・和田茂樹¹・緑川貴^{2,3}・石井雅男²・笹野大輔²・小杉如央²・濱健夫¹(¹筑波大学生命環境科学研究科²・気象研究所³・現・長崎海洋気象台)

セッションG17 分析化学・物理化学

コンピーナ:平田岳史

9:30-9:45 1B01

ナノ・シムスを用いたコドントのウラン-鉛年代測定とストロンチウム同位体分析
○佐野有司¹・豊島考作^{1,2}・高畑直人¹・白井厚太郎¹(¹東大・大海研²・現在:旭化成)

9:45-10:00 1B02

表面電離質量分析法による惑星物質の安定塩素同位体分析:現状と新たな展開
○中村昇^{1,2}・Laurence E. Nyquist¹・Young Reese³・Chi-Yu Shih⁴・藤谷達也⁵・岡野修⁶(¹NASA JSC²・神戸大³・JESCG/Muniz Enging⁴・ESCG Jacobs-Sverdrup⁵・海技大⁶・岡山大)

10:00-10:15 1B03

Te-Xe法による鉍化年代測定-熱水性金鉱床を例として-
高岡宣雄¹・○島田允堯¹・島正子²・中村智樹^{3,4}・長尾敬介⁵・佐川斉^{6,7}・岡崎隆司³・島田和彦³(¹九大²・国立科博³・九大理⁴・現:東北大理⁵・東大理⁶・山形大理⁷・現:ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ)

10:15-10:30 1B04

レーザー分光による雪氷表面上での光化学反応過程の研究
○藪下彰啓¹・川崎昌博²(¹京大院工²・地球研)

<休憩> 10:30-10:45

10:45-11:00 1B05

High Resolution Multi-collector Gas Source Isotope Ratio Mass Spectrometry
○Andreas W. Hilkert¹・Michael Deerberg¹・Jens Radke¹・Hans-Jürgen Schlüter¹・Johannes Schwieters (Thermo Fisher Scientific)

11:00-11:15 1B06

XAFS法による日本と中国の室内塵及び公園の砂に含まれる鉛のスペシエーション
○山田紘子¹・Haibo QIN²・高橋嘉夫¹(¹広島大院理²・Institute of Geochemistry, CAS)

11:15-11:30 1B07

ソフトアブレーション-ICP 質量分析法による化学形態分析の試み
○平田岳史¹・佐藤竜也¹・坂田周平¹・向山翔¹・折橋裕二²(¹京大理²・東大地震研)

11:30-11:45 1B08

氷_{I_h}相の自己拡散その場観察実験
○野口直樹¹・鍵裕之¹・久保友明²(¹東大地殻化学実験施設²・九大院理)

第1日目(9月11日)午前

【C会場】午前

【D会場】午前

セッションG8 マントル物質の化学とダイナミクス(1)

コンピーナ: 下田玄・鈴木勝彦・小木曾哲・石川晃

9:30-9:45 1C01

MORB化学組成の多様性: FOZOとHIMUの成因に関する解釈

○下田玄¹・小木曾哲²(¹産業技術総合研究所・²京都大学大学院人間環境学研究所)

9:45-10:00 1C02

地球内部の高い³He/⁴He比に関する諸問題 —各種モデルの再検討

○兼岡一郎(東京大学地震研)

10:00-10:15 1C03

シャツキーライズの玄武岩質ガラスに見られる脱水したりサイクル物質の痕跡

○清水健二¹・清水孚道²・常青¹・木村純一¹・佐野貴司³(¹海洋研究開発機構・²ウッズホール海洋研究所・³国立科学博物館)

10:15-10:30 1C04

Are Ontong Java Plateau and Lyra Basin related? : Evidence from rocks dredged during R/V Kairei cruise KR06-16

○M. L. G., Tejada¹・K. Shimizu¹・T. Sano²・K. Suzuki¹・T. Hanyu¹・M. Nakanishi³(¹Institute for Research on Earth Evolution, JAMSTEC・²National Museum of Nature and Science・³Chiba University)

10:30-10:45 1C05

複数相飽和実験によるブチスポットマグマ生成条件の決定

○町田嗣樹¹・小木曾哲²・平野直人³(¹早稲田大創造理工・²京都大院人間環境・³東北大東北アジア研)

<休憩> 10:45-11:00

11:00-11:15 1C06

チリ海溝のブチスポット火山

○平野直人¹・町田嗣樹²・阿部なつ江³・森下知晃⁴・田村明弘⁴・荒井章司⁴(¹東北大東北アジア研・²早稲田大創造理工・³JAMSTEC IFREE・⁴金沢大自然システム)

11:15-11:30 1C07

バタゴニア(南緯37-52° S)の大陸下リソフェリック・マントル由来ゼノリス中の希ガス同位体組成

○ティアゴ・ジャロビツキ^{1,2}・角野浩史²・ロムロ・コンセシオン¹・折橋裕二³・長尾敬介²(¹リオ・グランド・デ・スル連邦大学・²東大院理学系研究科・³東大地震研)

11:30-11:45 1C08

ザクロス山脈Sanandaj-Sirjan Zone北部のフェルシック深成岩のRb-Sr、Sm-Nd同位体分析

○清水美早¹・浅原良浩¹・壺井基裕²・Azizi, Hossein³(¹名大院環境・²関西学院大理工・³クルジスタン大・工)

11:45-12:00 1C09

I/Br比を用いたキンパーライトの系統的分類

○遠山知亜紀¹・村松康行¹・糀谷浩¹・山本順司²・角野浩史³・中井俊一³・兼岡一郎³(¹学習院大学・²北海道大学・³東京大学)

12:00-12:15 1C10

ブラジルSao Luiz産の超深部起源ダイヤモンドの成長環境

○鍵裕之¹・小竹翔子¹・大藤弘明²・Zedgenizov D.A.³・Ragozin A.L.³・Shatsky V.S.³(¹東大院理・²愛媛大GRC・³ロシア科学アカデミー地質鉱物研)

セッションG2 古気候・古環境解析の地球化学(1)

コンピーナ: 入野智久・渡邊剛・中塚武・横山祐典・原田尚美

9:30-9:50 1D01(招待)

石筍の酸素同位体比に記録されたフィリピン西部の降水量変動へのインド洋ダイポールの影響

○堀真子¹・沈川洲²・Siringan F.³・米泓生⁴・狩野彰宏⁵(¹成功大学・²台湾大学・³フィリピン大学・⁴台湾師範大学・⁵九州大学)

9:50-10:05 1D02

石筍を用いた石垣島白保竿根田原洞穴の古環境情報の復元

○新地将大¹・山内平三郎²・東田盛善³・片桐千亜紀⁴・藤田祐樹⁴・能登征美⁵・栗崎弘輔¹・吉村和久¹(¹九大院理・²沖縄鍾乳洞協会・³八重山高校・⁴沖縄県博・⁵九電産業(株))

10:05-10:20 1D03

石筍に記録された日本の後氷期と完新世気候変動

○狩野彰宏¹・曾根知実¹・柏木健司²・堀真子³(¹九大比文・²富山大理工・³台湾成功大)

10:20-10:35 1D04

薩摩硫黄島ハマサンゴの骨格成長と熱水活動の関係

○神村奏恵¹・渡邊剛¹・清川昌一²(¹北大院理・²九大院理)

10:35-10:50 1D05

サンゴ内部モデルを用いた骨格中の $\delta^{13}\text{C}$ 記録の再現と古環境指標としての有用性の検討

○中村隆志¹・灘岡和夫¹・渡邊敦¹・宮島利宏²(¹東工大院情報理工・²東大大気海洋研)

<休憩> 10:50-11:05

11:05-11:20 1D06

化石サンゴ骨格のSr/Ca比と放射性炭素年代の分析による、完新世中期の東シナ海の古水温復元

○関有沙^{1,2}・横山祐典^{1,2}・鈴木淳³・川久保友太^{1,2}・菅浩伸⁴・宮入陽介¹・岡井貴司⁵・松崎浩之⁵・浪崎直子⁶(¹東京大学大気海洋研究所・²東京大学大学院理学系研究科・³産業技術総合研究所・⁴岡山大学大学院教育学研究科・⁵東京大学大学院工学系研究科・⁶国立環境研究所)

11:20-11:35 1D07

IODP Exp.310で得られた化石サンゴのホウ素同位体($\delta^{11}\text{B}$)分析および放射性炭素($\Delta^{14}\text{C}$)から復元される最終氷期の赤道太平洋の炭素循環

○窪田薫¹・横山祐典¹・石川剛志²・井上麻夕里¹・鈴木淳³(¹東大大気海洋研・²海洋研究開発機構・³産業技術総合研究所)

11:35-11:50 1D08

二つの湖の堆積物比較による広域気候変動と局地的変動の分離-琵琶湖・水月湖を例として-

○内藤慶一¹・横山祐典¹・宮入陽介¹・中野孝教²・宮川千絵²(¹東京大学大気海洋研究所・²総合地球環境学研究所)

11:50-12:05 1D09

グリーンランドアイスコアの過去450年間の土壌ダストの記録

○関宰¹・河村公隆¹・James Bendle^{1,2}・藤井理行³(¹北大低温研・²グラスゴウ大・³国立極地研究所)

12:05-12:20 1D10

ドームふじ氷床コアの宇宙線生成核種(¹⁰Be, ²⁶Al, ³⁶Cl)に記録された過去の地磁気エクスカージョンと古気候学的重要性

○横山祐典¹・高橋理美¹・阿瀬貴博²・宮入陽介¹・堀内一穂³・松崎浩之⁴・本山秀明⁵(¹東大大気海洋研・²東京工業大・³弘前大・⁴東大工学系・⁵国立極地研)

【E会場】午前

セッションG7 地球表層水圏と生態系

コンピーナ:丸岡照幸・和田茂樹・瀬戸蘭美・益田晴恵

9:30-10:00 **1E01**(招待)

東シベリア北極圏タイガ-ツンドラ境界生態系の水・炭素循環

○杉本敦子^{1,2}・新宮原諒²・Liang Maochang²・中村恵²・鷹野真也²・岩花剛¹・鄭峻介²・Ivan Bragin¹・T.C. Maximov³(¹北海道大学地球環境科学研究
院・²北大院環境科学院・³Institute for Biological Problems of
Cryolithozone, SBRAS)

10:00-10:15 **1E02**

東シベリアタイガ-ツンドラ境界域における土壌のメタンフラックスと安定
同位体比

○新宮原諒¹・杉本敦子^{1,2}・Trofim C. Maximov³(¹北大環境科学院・²北大
地球環境科学研究院・³ロシア科学アカデミー寒冷圏生物学研究所)

10:15-10:30 **1E03**

東シベリア永久凍土層の水形成メカニズムと植生の関係

○鷹野真也¹・岩花剛²・杉本敦子^{1,2}・山下洋平^{1,2}・T. Maximov³(¹北大院環
境・²北大院地球環境・³IBPC, SBRAS)

10:30-10:45 **1E04**

海洋生物が受ける温暖化と海洋酸性化の複合影響の実験的研究

○野尻幸宏(国立環境研究所)

<休憩> 10:45-11:00

11:00-11:15 **1E05**

底層を漂流する海藻(寄り藻)の生成と沿岸底生生態系への有機炭素供
給

○和田茂樹¹・小森真里菜^{2,3}・濱健夫²(¹筑波大下田センター・²筑波大生命
環境・³KEK)

11:15-11:30 **1E06**

日本の湖沼におけるpCO₂と栄養塩の関係 -猪苗代湖・霞ヶ浦に着目し
て-

○真中卓也¹・牛江裕行¹・荒岡大輔¹・稲村明彦²・鈴木淳²・川幡穂高¹(¹東
京大学大気海洋研究所・²産業技術総合研究所)

11:30-11:45 **1E07**

琵琶湖の浮遊細菌群集の炭素現存量とその行方

○高巢裕之¹・國弘忠生²・中野伸一¹(¹京大生態研・²愛媛大沿岸センタ
ー)

11:45-12:15 **1E08**(招待)

生物は環境の「ノイズ」でしかないのか?-地球化学的問題に対する数理
生物学的アプローチ

○瀬戸蘭美(奈良女大・理・情報科学科)

第1日目(9月11日)午後

【A会場】午後

【B会場】午後

セッションG5 海洋における微量元素・同位体

コンピーナ:小畑元・張勁・宗林由樹

14:30-14:45 1A09

2012年1-2月の北西部太平洋における福島第一原子力発電所由来放射性セシウムの分布

○熊本雄一郎¹・村田昌彦¹・河野健¹・青山道夫²(¹海洋研究開発機構・²気象研究所)

14:45-15:00 1A10

ベーリング海の海水柱中におけるプルトニウム同位体比とその起源

○山田正俊¹・鄭健²(¹弘前大被ばく研・²放医研防護セ)

15:00-15:15 1A11

ケイ藻生物ポンプのデジタルアクションII ケイ酸塩錯体のケイ藻による選択的取り込みが海洋表層の希土類元素濃度を決める

赤木右(九州大学大学院理学研究院)

15:15-15:30 1A12

ケイ藻生物ポンプのデジタルアクションIII 珪藻殻包有有機炭素量の測定および沈降有機炭素の同位体的特徴

○安田早希¹・原由利子¹・赤木右¹・高橋孝三^{1,2}(¹九州大学理地球惑星科学・²現北星学園大学)

15:30-15:45 1A13

日本海における溶存態生物活性微量元素の分布(GEOTRACES JAPAN KH-10-2次航海)

○中口讓¹・坂本敦史²・宗林由樹³(¹近畿大理工・²九州大学カーボンニュートラルエネルギー国際研究所・³京大化学研)

15:45-16:00 1A14

海水中Zr, Hf, Nb, Ta分析法の改良と日本海海水試料への適用

○藤坂浩章・宗林由樹(京大化研)

<休憩> 16:00-16:15

16:15-16:30 1A15

日本海における大和海嶺及び周辺海盆堆積物の起源並びに堆積環境

○中村祥平・本多照幸(東京都市大院工学研究科)

16:30-16:45 1A16

ホタルイカおよび動物プランクトンの炭素・窒素安定同位体比による日本海食物網解析

○山崎奈津実¹・張勁¹・稲村修²(¹富山大理・²魚津水族館)

16:45-17:00 1A17

Clumped isotopes analyses for body water records on marine and terrestrial biogenic carbonates from Japan

○Vasiliev Mikhail・Yamada Keita・Yoshida Naohiro (Tokyo Institute of Technology)

17:00-17:15 1A18

鉄・ネオジム同位体から探るオホーツク海における鉄の供給源と輸送過程

○安田友紀¹・市川諒¹・浅原良浩¹・中塚武¹・南秀樹²・長尾誠也³・西岡純⁴・谷水雅治⁵・申基澈⁶・河野麻希子¹(¹名古屋大院環境・²東海大生物・³金沢大環日本海域・⁴北海道大低温研・⁵JAMSTEC高知・⁶産総研)

17:15-17:30 1A19

インド洋における溶存態生物活性微量元素の分布(GEOTRACES JAPAN KH-09-5 航海)

○宗林由樹・Huong Thi Dieu Vu(京大化学研)

セッションG3 放射性廃棄物と地球化学

コンピーナ:日高洋・大貫敏彦・吉田英一・河田陽介

14:30-14:45 1B09

担子菌へのCsの濃集挙動

○大貫敏彦・江幡大蔵・坂本文徳・香西直文・山崎信哉・椎名和弘・菅野崇(原子力機構先端基礎)

14:45-15:00 1B10

¹³⁴Cs/¹³⁷Cs線量比を指標とした福島第一原発事故に由来する放射性物質の放出原子炉別影響評価

○小森昌史¹・小豆川勝見¹・野川憲夫²・松尾基之¹(¹東大院総合文化・²東大アイソトープ総合センター)

15:00-15:15 1B11

福島第一原子力発電所から放出された放射性セシウムの樹葉による取り込み及び分布状況

○田中万也¹・岩谷北斗²・坂口綾²・高橋嘉夫²・恩田裕一³(¹広大サステナセンター・²広大院理・³筑波大院生命環境)

15:15-15:30 1B12

福島県沿岸における放射性ストロンチウムの分布と挙動

○苅部基一¹・田中敦¹・栗島克明²・木方展治³・柴田康行¹(¹国環研・²WDB(株)・³農環研)

15:30-15:45 1B13

地震起源タービダイトへの放射性核種の埋没

○入野智久¹・池原研²・ロバート・ジェンキンス³・芦寿一郎⁴・渡辺豊¹(¹北大院地球環境・²産総研地質情報・³横浜国立大・⁴東大大気海洋研)

15:45-16:00 1B14

「福島原発-再臨界の可能性」- オクロ天然原子炉の教訓

小嶋稔¹・羽場麻希子²(¹東大院理・地惑・²東大院理)

<休憩> 16:00-16:15

16:15-16:45 1B15(招待)

長崎、福島に分布するプルトニウムと放射性セシウムの定量と存在状態

○宇都宮聡¹・岩田孟¹・川元侑治¹・金子誠¹・仲松有紀¹・大貫敏彦²・難波謙二³(¹九州大院理・²日本原子力研究開発機構・³福島大学)

16:45-17:00 1B16

多変量解析による大規模地下施設周辺の地下水水質変化プロセスの推定

○岩月輝希・水野崇・萩原大樹・新宮信也・大森一秋・福田朱里(日本原子力研究開発機構)

17:00-17:15 1B17

長期的反応場における*Saccharomyces cerevisiae*に対するランタノイド収着機構の解明

○塩津弘之¹・姜明玉¹・仲松有紀¹・大貫敏彦²・宇都宮聡¹(¹九州大学・²日本原子力研究開発機構)

17:15-17:30 1B18

花崗岩のアルカリ変質における反応・拡散複合評価

○桐野裕介¹・中嶋悟¹・横山正¹・笹本広²(¹阪大院理・²原子力機構)

17:30-17:45 1B19

北海道北部新第三紀堆積岩層における間隙水への希土類元素の溶出挙動

○深井恵¹・木川田喜一²・大井隆夫²(¹上智大院理工・²上智大理工)

17:45-18:00 1B20

地下環境の酸化還元緩衝作用と処分深度

○吉田英一¹・山本鋼志²(¹名大博物館・²名大院環境学研究科)

第1日目(9月11日)午後

<休憩> 17:00-17:15

【C会場】午後

セッションG8 マントル物質の化学とダイナミクス(2)

コンピーナ: 下田玄・鈴木勝彦・小木曾哲・石川晃

14:30-14:45 1C11

高圧高温下におけるカリウムのシリケートメルト-液体金属鉄間分配係数の実験的決定

○野村龍一¹・廣瀬敬^{1,2}・小澤春香^{1,2}・大石泰生³・平尾直久³(¹東工大廣瀬研²海洋研究開発機構³高輝度光科学研究センター)

14:45-15:00 1C12

部分融解したカンラン岩中での単金属硫化鉱物と白金族鉱物の相関係
○小木曾哲(京都大学大学院人間・環境学研究科)

15:00-15:15 1C13

レイトベニア成分に乏しい太古代マントルの探索

○石川晃^{1,2}・下條将徳¹・鈴木勝彦²・Kenneth D. Collerson³・小宮剛¹(¹東大総合文化²海洋研究開発機構³クイーンズランド大)

15:15-15:30 1C14

小笠原諸島浜砂から分離したクロムスピネルのオスミウム:沈み込み帯の酸化還元状態

○鈴木勝彦・仙田量子・清水健二(海洋研究開発機構・地球内部ダイナミクス領域)

15:30-15:45 1C15

Statistical properties of isotopic variability in oceanic and arc basalts: implications on mantle dynamics

○岩森光・中村仁美(東工大地球惑星)

<休憩> 15:45-16:00

セッションG14 固体地球化学(全般)

コンピーナ: 折橋裕二・大野剛・角野浩史

16:00-16:15 1C16

地球化学的インバージョンによる島弧遷移帯におけるマントル温度構造の推定

○中村仁美・岩森光(東工大・地惑)

16:15-16:30 1C17

Geochemical study of the Oku Volcanic Group lavas, Cameroon Volcanic Line, west Cameroon: Preliminary results from eight mafic lavas

○Asobo N.E. Asaah¹・Tetsuya Yokoyama¹・Tomohiro Usui¹・Festus T. Aka²・Minoru Kusakabe³・Greg. Tanyileke²・J.V.Hell²・Takeshi Ohba⁴
(¹Tokyo Institute of Technology²IRGM Yaoundé, Cameroon³Univ. of Toyama⁴Tokai Univ.)

16:30-16:45 1C18

北海道の河川堆積物を用いた⁸⁷Sr/⁸⁶Sr同位体比分布

○城森由佳¹・南雅代²・太田充恒³・今井登³(¹名大院環境²名大年代測定セ³産総研)

16:45-17:00 1C19

重晶石中のSO₃ラジカルのα線による生成効率:ESR年代測定への応用

○磯野祐輔¹・豊田新¹・西戸裕嗣²・鹿山雅裕³(¹岡山理科大理²岡山理科大学生物地球³広島大学理)

17:15-17:30 1C20

第四紀ジルコンのU-Pb年代測定における放射非平衡の影響の補正

○坂田周平¹・岩野英樹²・服部健太郎¹・檀原徹²・平田岳史¹(¹京都大学大学院理学研究科²京都フィッション・トラック)

17:30-17:45 1C21

年代学的指紋から見出されるアルゼンチン・パタゴニア, セロ・パンパ地域直下の地殻発達史: 中期中新世アダカイトに混在する外来ジルコンのLA-ICPMS U-Pb年代からの制約

○折橋裕二¹・安間了²・元木昭寿³・ハラー・ミゲール⁴・平田大二⁵・岩野英樹⁶・角野浩史⁷・ラモス・ピクター⁸(¹東大地震研²筑波大院³リオ州立大地鉱⁴パタゴニア大サンユアン校⁵神奈川県博⁶東大院⁷ブエノスアイレス大アンデス研)

17:45-18:00 1C22

IODP第322次研究航海四国海盆掘削試料の凝灰岩・火山砕屑性砂岩に含まれるジルコンのU-Pb年代

○新正裕尚¹・折橋裕二²・中嶋健³・斎藤実篤⁴・小田啓邦⁵・檀原徹⁶(¹東経大²東大地震研³産総研地圏資源環境⁴海洋研究開発機構⁵産総研地質情報⁶(株)京都フィッション・トラック)

第1日目(9月11日)午後

【D会場】午後

セッションG6 炭化水素資源の地球化学・深部炭素循環
コンピナー:早稲田周・坂田将・鈴木徳行・佐野有司

14:30-14:45 1D11

深部地下油層環境における酢酸からのメタン生成経路

○真弓大介¹・坂田将¹・前田治男²・宮川喜洋²・五十嵐雅之²・玉木秀幸¹・竹内美緒¹・鎌形洋一¹(¹産総研・²INPEX)

14:45-15:00 1D12

深部地下油層環境における原油の生分解と生物的メタン生成

○持丸華子・吉岡秀佳・真弓大介・坂田将・玉木秀幸・鎌形洋一(産総研)

15:00-15:15 1D13

南関東ガス田のかん水に含まれる地下微生物とメタン生成活性

○吉岡秀佳¹・片山泰樹¹・坂田将¹・村本良幸²・宇佐美潤²(¹産総研地圏資源環境・²関東天然瓦斯開発)

15:15-15:30 1D14

南海トラフ海底堆積物中のアーキア由来極性脂質:深部海底堆積物中のメタン生成菌の分布に関する考察

大庭雅寛¹・○坂田将²・藤井哲哉³(¹東北大院理・²産総研・³JOGMEC)

15:30-15:45 1D15

微生物生態学と地球化学で探る、日本海上越沖深部ガス含有流体の起源と分布

○柳川勝紀¹・八久保晶弘²・戸丸仁¹・松本良¹・鈴木庸平¹(¹東大院理地惑・²北見工業大学環境エネルギー研究推進センター)

15:45-16:00 1D16

北海道中新世露頭炭中の微生物起源コールベットメタン

○齋藤裕之¹・鈴木徳行^{1,2}(¹北大創成JAPEX・²北大理)

<休憩> 16:00-16:15

16:15-16:45 1D17(招待)

The Deep Carbon Observatory – a multidisciplinary, international initiative dedicated to achieving a transformational understanding of Earth's deep carbon cycle

○Bernard Marty and the DCO team (Université de Lorraine)

16:45-17:00 1D18

Volcanic CO₂ flux from Japan Arcs

○Hiroshi Shinohara (Geological Survey of Japan, AIST)

17:00-17:15 1D19

Carbon isotope composition and flux in a subductionzone setting: Aira caldera, Kyushu, Japan

○Emilie Roulleau¹・Yuji Sano¹・Naoto Takahata¹・Shinsuke Kawagucci²・Hiroshi Takahashi³(¹The University of Tokyo, AORI・²JAMSTEC・³Geological Survey of Japan)

17:15-17:45 1D20(招待)

Isotope Perspectives on the Deep Carbon Cycle

○J. Horita¹・P. Cartigny²・V.B. Polyakov³(¹Texas Tech University・²IPG-Paris・³Russian Academy of Science, Russia)

17:45-18:00 1D21

Experimental determination of carbon isotope fractionation in the deep Earth

○M. Satish-Kumar¹・T.Yoshino²・S.Mizutani³・H.So⁴・M.Kato⁵

(¹NiigataUniv.・²Okayama Univ.・³Shizuoka Univ.・⁴Asahi Diamond Industrial Co. Ltd.・⁵Chiba Univ.)

18:00-18:15 1D22

The carbon (and H₂O, N, noble gas) inventory of the Earth: geochemical and cosmochemical constraints

○Bernard Marty¹・F. Albarède²(¹Université de Lorraine・²Ecole Normale Supérieure)

18:15-18:30 1D23

Origin of ¹³C-enriched methane in deep-sea hydrothermal fluids from the Izu-Bonin-Mariana Arc

○Ururu Tsunogai¹・Daisuke D. Komatsu¹・Fumiko Nakagawa²(¹Environ. Studies, Nagoya University・²Fac. Sci., Hokkaido University)

第1日目(9月11日)午後

【E会場】午後

セッション S5 生物起源 VOC と有機エアロゾル

コビーナ:河村公隆・横内陽子・今村隆史・谷晃・梶井克純・宮崎雄三

14:30-15:00 1E09(招待)

陸域観測サイト・ネットワークの連携による、生態系-大気間の温室効果
気体および反応性気体の交換過程の研究

○三枝信子・高橋善幸(国立環境研究所地球環境研究センター)

15:00-15:30 1E10(招待)

スギおよびヒノキからのジテルペン類放出とそのエアロゾル生成への潜
在的影響力

○松永壮¹・茶谷聡²・中塚誠次³・望月智貴^{4,5}・谷晃⁵・楠本大⁶・内海泰弘⁷・
榎木勉⁷・日浦勉¹(¹北大研究林・²豊田中研・³NTTデータCCS・⁴静岡県大研・⁵
静岡県大環境研・⁶東大演習林・⁷九大演習林)

15:30-15:45 1E11

熱帯植物から放出される極性有機化合物の測定

○横内陽子¹・斉藤拓也¹・奥田敏統²・遊川知久³(¹国立環境研究所・²広島
大学・³国立科学博物館)

15:45-16:00 1E12

根から取り込まれた有機物質の代謝によるBVOCの生成

○谷晃¹・王鳳華¹・新井竜司²・谷亨²(¹静岡県立大学・²(地独)環境科学技
術研究所)

<休憩> 16:00-16:15

16:15-16:45 1E13(招待)

ユーカリを用いたモノテルペンの代謝工学

○矢崎一史(京大生存研)

16:45-17:00 1E14

O3-イソプレン反応で生成するSOA:ラジカル捕捉剤の効果

○佐藤圭¹・猪俣敏¹・奥村智憲²・東野達²・廣川淳³・内田里沙¹・シンジャワ
¹・今村隆史¹(¹国立環境研・²京都大院・³北海道大院)

17:00-17:15 1E15

夏季の落葉広葉樹林における微小水溶性有機エアロゾルの生成

○宮崎雄三¹・Jinsang Jung^{1,2}・Pingqing Fu^{1,3}・溝口康子⁴・山野井克己⁴・河
村公隆¹(¹北大低温研・²KRISS韓国・³CAS中国・⁴森林総研北海道支所)

17:15-17:30 1E16

森林大気中の低分子ジカルボン酸の経時変化と安定炭素同位体比

○河村公隆・梅本延彦・立花英里(北海道大学低温科学研究所)

第1日目(9月11日)ポスターセッション
F会場 生協文系食堂, コアタイム 13:00~14:30

セッションG5 海洋における微量元素・同位体

1P01

Characterization, sources and the seasonal changes of aerosol of southeast Japan Sea in 2009~2010
○Chao Qu, Jing Zhang (Graduate school of science and engineering, Department of environmental biology and chemistry, University of Toyama)

1P02

西部北太平洋上大気エアロゾル中の化学組成分析
武田光市¹・○中口謙²・稲本まみ²・益田晴恵³・張勁⁴
(¹近畿大院総合理工・²近畿大理工・³大阪市大理工・⁴富大院理工)

1P03

堆積物中Mo,W安定同位体分析法の最適化検討
○市脇翔平¹・宗林由樹¹・平田岳史²・村山雅史³(¹京大化研・²京大院理・³高知大学海洋コア総合研究センター)

1P04

キレート吸着剤固相抽出と高分解能ICP質量分析法に基づく環境水中微量貴金属元素(Pd, Pt, Au)の定量
○山本純¹・佐藤賢吾¹・宗林由樹¹(京大化研)

1P05

サンゴ中のウランに関する研究 -同位体組成分析および蛍光分光XAFS法を用いた化学形態分析-
森千晴^{1,4}・○坂口綾¹・佐々木圭一²・宇留賀朋哉³・谷田肇³・寺田靖子³・高橋嘉夫¹(¹広島大院理・²金沢学院大文化財・³高輝度光科学研究セ・⁴東大大気海洋研)

1P06

愛知県三河湾の貧酸素水塊における微量元素の分布
○木本洋¹・山本鋼志(名大院環境)

1P07

東日本大震災に起因する東北沖海底堆積物環境変化
○神林翔太¹・張勁¹・堀川恵司¹・竹内章¹・蒲池浩之¹・廣上清一²・益田晴恵³・淵田茂司³・前田俊介³・村山雅史⁴(¹富山大理工・²富山大RI施設・³大阪市立大院理・⁴高知大海洋コアセンター)

1P08

最近10ヶ年の東シナ海現場観測結果からみるChl.Max水塊の分布と基礎生産の推定
○藤城義久¹・張勁¹・松野健²・石坂丞二³(¹富山大院理工・²九大応力研・³名大水循環セ)

1P09

窒素安定同位体を用いた海洋一酸化二窒素の生成過程の解明
○阿部瞳¹・吉川知里¹・相田(野口)真希²・豊田栄¹・吉田尚弘¹(¹東京工業大学大学院総合理工学研究科・²JAMSTEC)

1P10

日本海における微量元素の経年比較
○坂本敦史¹・中口謙²・宗林由樹³・下島公紀¹(¹九州大学I2CNER・²近畿大学理工・³京都大学化学研究所)

セッション G13 海洋化学・大気水圏(全般)

1P11

パラオ海溝にみられる深海石灰岩岩体の溶解
○坪井辰哉¹・和田秀樹¹・中村俊夫²・藤岡換太郎³・小栗一将³・北里洋³(¹静大理学研究科・²名大年測センター・³海洋研究開発機構)

1P12

駿河湾における溶存無機炭素の¹⁴C濃度と栄養塩濃度
○坪井辰哉¹・和田秀樹²・宗林留美²・松崎浩之³(¹静岡大学大学院理学研究科・²静岡大学理学部地球科学科・³東京大学大学院工学系研究科)

1P13

流星海山における鉄マンガンクラストの成長速度および元素組成
○井上美南¹・坂口綾¹・高橋嘉夫¹・松崎浩之²・臼井朗³
(¹広島大院理・²東大院工・³高知大理)

1P14

鹿児島県薩摩硫黄島長浜湾の鉄に富む鉄沈殿物中と周辺海水中の希土類元素組成の比較
○養和雄人¹・清川昌一¹・後藤秀作²・伊藤孝³・池原実⁴・山口耕生^{5,6}・上芝卓也¹・池上郁彦¹・赤木右¹(¹九大地惑・²産総研・³茨大教育・⁴高知大コア・⁵東邦大化学・⁶NASA)

セッション S5 生物起源 VOC と有機エアロゾル

1P15

森林における低分子ジカルボン酸・脂肪酸の組成と日変化
○野坂圭^{1,2}・河村公隆²・持田陸宏³・岩本洋子³(¹北海道大学環境科学院・²低温科学研究所・³名古屋大学大学院環境学研究所)

1P16

森林大気における有機エアロゾルの組成
○福田康朗^{1,2}・河村公隆²・持田陸宏³・岩本洋子³(¹北海道大学大学院環境科学院・²北海道大学低温科学研究所・³名古屋大学大学院環境学研究所)

セッションG7 地球表層水圏と生態系

1P17

琵琶湖全域における表層堆積物中有機物の起源別分布
○脇園義治¹・青木伸久¹・村瀬潤²・山本修一¹(¹創価大・大学院・²名古屋大・大学院)

セッションG6 炭化水素資源の地球化学・深部炭素循環

1P18

有機物の熟成過程におけるREEの挙動
○中田亮一¹・加藤進²・早稲田周³・奥村文章³・高橋嘉夫¹(¹広島大院理・²地球科学総合研究所・³石油資源開発)

1P19

なつしまNT-06-19航海によって採取された日本海メタン湧出海域の堆積物柱状試料を用いた有機無機地球化学分析
○荻原成騎¹・松本良²(¹東京大学理学系・²明治大学農学部)

第1日目 (9月11日) ポスターセッション
F会場 生協文系食堂, コアタイム 13:00~14:30

セッションS6 地球化学と生理学・生化学:生理学的知見からみる
地球化学

1P20

生育条件の変化における好塩性古細菌のジエーテル脂質への影響
○田上諒・山内敬明(九大院理)

1P21

アミノ酸のホモキラリティーの起源と地球化学
○田村浩二^{1,2} (¹東京理科大基礎工生物工・²東京理科大総合研究機構)

セッションS1 東アジアの環境と地球化学

1P22

Be-7 を利用したメコンデルタの堆積環境の解明
○金井豊¹・齋藤文紀¹・田村亨¹・Nguyen Van Lap²・Ta Thi Kim Oanh²・佐藤明夫³(¹産総研地質調査総合センター・²ベトナム科学院・³東大院)

1P23

西表島における酸性降下物中の硫黄安定同位体比
岩下僚¹・山中寿朗²・高相徳志郎³・井倉洋二⁴・栗崎弘輔¹・○吉村和久¹(¹九大院理・²岡山大院自然・³琉球大熱生研・⁴鹿大農)

セッションG17 分析化学・物理化学

1P24

High precision 4-isotope Sulfur measurements using the CAMECA IMS 1280-HR
P. Peres¹・F. Fernandes¹・M. Schuhmacher¹・P. Salot¹・○M. Ishikawa²
(¹CAMECA・²AMETEK)

1P25

P-TIMS法を用いた高精度ホウ素同位体比分析における最適グラファイト量の評価
○松岡淳¹・石川剛志² (¹株式会社マリン・ワーク・ジャパン・²海洋研究開発機構高知コア研究所)

1P26

多重検出型ICP質量分析計を用いたホウ素同位体比測定法における精度・確度の評価
○永石一弥¹・谷水雅治²(¹株式会社 マリン・ワーク・ジャパン・²海洋研究開発機構高知コア研究所)

1P27

213 nm Nd-YAGレーザーアブレーションICP質量分析計を用いたジルコンのU-Pb年代測定:分析条件の最適化によるマトリクス効果軽減の試み
○高地吉一¹・折橋裕二²・小原北士¹・藤本辰弥¹・春田泰宏³・東田和弘⁴・山本鋼志³(¹富山大・院・²東大・地震研・³名大・院・⁴名古屋大学博物館)

1P28

トリプル四重極ICP-MS(ICP-QQQ)の地球化学分野への応用
○鹿籠康行¹・中野かずみ¹・杉山尚樹²・角田紳一郎¹(¹アジレントテクノロジー・²アジレントインターナショナル)

1P29

微量炭素試料の¹⁴C測定法の検討
○加藤ともみ¹・南雅代²・中村俊夫²(¹名大院環境・²名大年代測定セ)

1P30

大気化学における不均一反応研究への超長光路吸収分光法の応用
○藪下彰啓¹・川崎昌博²(¹京大院工・²地球研)

1P31

レーザーイオン化単一粒子質量分析計による個別粒子のリアルタイム分析
○藪下彰啓¹・松見豊²(¹京大院工・²名大STE研)

1P32

マントル物質中のハロゲン定量に向けた希ガス分析システムの構築
○小林真大・角野浩史・長尾敬介(東大院理)

セッションG4 鉱物境界面の地球化学・水-岩石相互作用

1P33

鉱物-熱水フローリアクターを用いる原始ペプチド生成モデルの解析
○川村邦男¹・竹家均²・櫛部崇夫²・古泉ゆか²(¹広島修道大人間環境・²大阪府大院工)

1P34

阿武隈花崗岩中の黒雲母によるセシウムの濃縮
○青井裕介¹・福土圭介²・森下知晃¹・亀井淳志³(¹金沢大・自然システム・²金沢大・環日研セ・³島根大・地球物質システム)

1P35

X線マイクロビームを用いた炭酸塩鉱物中のヒ素の化学状態分析とその環境化学的意義
○横山由佳¹・岩月輝希²・高橋嘉夫¹(¹広島大・院理・²原子力機構)

1P36

鉄呼吸微生物による不溶性鉄酸化物の還元
○水沼環・田中崇之・鈴木義規・斎木博(東京工科大・応用生物)

セッションG3 放射性廃棄物と地球化学

1P37

環境放射能を用いた教養教育—地球科学への応用をさぐる—
○田中剛¹・竹内誠²・片岡達也³(¹名大年測センター・²名大院環境・³名大理)

1P38

河岸段丘堆積物中の砂岩礫・玄武岩礫の風化における元素挙動
○春田泰宏¹・山本鋼志¹・吉田英一²(¹名古屋大院環境・²名古屋大博物館)

1P39

SEC-ICP-MSを用いた地下水中の微量元素とコロイドの相互作用の検討
○東郷洋子¹・鈴木庸平²・福田朱里³・水野崇³・伊藤一誠¹(¹産総研・²東大院理・³原子力機構)

第1日目 (9月11日) ポスターセッション
F会場 生協文系食堂, コアタイム 13:00~14:30

1P40

放射性降下物起源Csの植物中における化学状態

○菅野崇¹・香西直文¹・坂本文徳¹・山崎信哉¹・椎名和弘¹・大貫敏彦¹(¹原子力機構先端基礎)

1P41

担子菌類による放射性Csの除染試験

○椎名和弘・菅野崇・坂本文徳・香西直文・山崎信哉・大貫敏彦(原子力機構先端基礎)

セッションG15 固体地球における水とその役割

1P42

沖縄トラフ第四与那国海丘海底熱水系の鉱物組成と硫黄安定同位体比から見た鉱化作用

○西尾竜・千葉仁(岡山大学大学院自然科学研究科)

1P43

中部沖縄トラフ伊是名海穴 HAKUREI Site の海底面に産する塊状硫化鉱物の形成機構 - TAIGA11航海コア試料の解析結果 -

○吉住亮人・浦辺徹郎・TAIGA11航海乗船研究者一同(東京大学理学系研究科)

1P44

鳩間海丘熱水域から採取されたデイサイトをを用いた熱水反応実験の組成分析結果

○正木裕香^{1,2}・渋谷岳造¹・吉崎もと子³・野崎達生¹・鈴木勝彦¹・高井研¹(¹海洋研究開発機構・²神奈川県立生命の星地球博物館・³東京工業大学大学院)

1P45

沖縄トラフ海底熱水域の硫化物中の重晶石のESR年代測定

○藤原泰誠¹・豊田新¹・内田乃¹・石橋純一郎²・中井俊一³・賞雅朝子³(¹岡山理科大学・²九州大理院・³東京大地震研)

1P46

南部マリアナトラフに産出する火山岩とそれに伴う熱水硫化物の地球化学的考察

○金森俊太郎・浦辺徹郎(東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻)

1P47

塩素安定同位体比を確からしく定量できる安定同位体比質量分析法(IRMS)の高感度化

○今野祐多・川口慎介(海洋研究開発機構)

セッションG14 固体地球化学(全般)

1P48

Reexamination of kimuraite: impure kimuraite and application of the theoretical equation of tetrad effect to the REE pattern of kimuraite

○Wenfang Jiao・Iwao Kawabe・Takenori Kato (Nagoya University)

1P49

南部北上山地、栗橋・蟹岳花崗岩体のK-Ar年代

飯泉寛子^{1,2}・○岩田尚能¹・井上響一郎³・高橋俊仁^{3,4}・中島和夫¹(¹山形大学理学部地球環境学科・²現:山形県水(株)・³山形大学大学院理工学研究科・⁴現:横須賀市立北下浦中学校)

1P50

LA-ICP質量分析法を用いたジルコンの高解像度微量元素イメージング

○服部健太郎¹・坂田周平¹・岩野英樹²・平田岳史¹(¹京都大学大学院理学研究科・²京都フィッシュントラック)

セッションG8 マントル物質の化学とダイナミクス

1P51

Preliminary isotopic data from Mesozoic to Cenozoic meimechite rocks from Far East Asia

○Keiko Sato¹・Yuka Hirahara¹・Ryoko Senda¹・Hidenori Kumagai¹・Hajimu Tamura²・Katsuhiko Suzuki¹ and Vradimir Prikhdko¹(¹IFREE, JAMSTEC・²Inst. Geology and Tectonics)

1P52

10GPaにおけるガーネット、カンラン石/含水メルト間の元素分配実験

○今井崇暢¹・高橋栄一¹・鈴木敏弘²・平田岳史³(¹東工大院地惑・²IFREE/JAMSTEC・³京大院地惑)

第2日目(9月12日) 午前

【A会場】 午前

【B会場】 午前

セッションG4 鉱物境界面の地球化学・水-岩石相互作用
コンビーナ: 高橋嘉夫・福士圭介・斉藤拓巳

8:30-8:45 2A01

パライト中のセレンを用いたredox 計の開発

○徳永紘平¹・横山由佳¹・大森恵理子¹・川口慎介²・高橋嘉夫¹
(¹広島大学院²JAMSTEC)

8:45-9:00 2A02

オマーンの高アルカリ温泉周辺に産するCaCO₃鉱物多形生成の反応速度論

○松原勇武¹・星野純¹・安楽総太郎¹・大竹翼²・佐藤努²・米田哲朗² (¹北大院工学院²北大院工学研究院)

9:00-9:15 2A03

室内実験及び量子化学計算に基づくAs及びSeのカルサイトへの分配機構

○横山由佳¹・田中雅人¹・高橋嘉夫¹ (広島大学院)

9:15-9:30 2A04

非晶質炭酸カルシウムの圧力誘起結晶化におけるカルサイトおよびファーストサイトの結晶成長

○丸山浩司¹・鍵裕之¹・吉野徹² (¹東大院理²都産技研)

9:30-9:50 2A05(招待)

金属酸化物表面の液中ナノスケール構造解析

○笹原亮¹・富取正彦¹ (北陸先端科学技術大学院大学マテリアルサイエンス研究科)

<休憩> 9:50-10:05

10:05-10:20 2A06

XAFS法及び分子軌道法を用いたクロム酸・モリブデン酸・タングステン酸の鉄水酸化物に対する反応性の比較

○有賀大輔¹・田中雅人¹・柏原輝彦²・高橋嘉夫¹ (¹広島大・院理²海洋研究開発機構)

10:20-10:35 2A07

鉄マンガン酸化物へのテルルの“異常濃集”の化学的要因

大石泰子¹・○柏原輝彦²・杉山敏基¹・坂口綾¹・高橋嘉夫¹ (¹広島大学²海洋研究開発機構)

10:35-10:50 2A08

吸着における希土類元素安定同位体分別メカニズムの解明

○中田亮一¹・谷水雅治^{1,2}・高橋嘉夫^{1,2} (¹広島大学院²JAMSTEC高知コア研究所)

10:50-11:05 2A09

群馬県万座温泉の特征的希土類元素組成とその解釈

○木川田喜一¹・深井恵²・大井隆夫¹ (¹上智大理工²上智大院理工)

<休憩> 11:05-11:20

11:20-11:35 2A10

Ln(III)キレート錯体生成反応のΔG, ΔH, ΔS の系列変化とランタニド四組効果: Ln-EDTAとLn-DTPAの場合

川邊岩夫 (名古屋大院環境学研究科地球惑星)

11:35-11:50 2A11

微小領域分析で探る花崗岩へのEu(III)取り込み機構

○福士圭介¹・長谷川優介²・前田耕志²・青井裕介²・田村明弘²・森下知晃²・荒井章司²・安楽総太郎³・山本祐平⁴・青才大介⁴・萩原大樹⁴・水野崇⁴・岩月輝希⁴ (¹金沢大・環日研セ²金沢大・院自然³北大・院工⁴日本原子力研究開発機構)

11:50-12:05 2A12

花崗岩によるEu(III)吸着のメカニスティックモデル

○前田耕志¹・長谷川優介¹・青井裕介²・福士圭介³・山本祐平⁴・萩原大樹⁴・青才大介⁴・水野崇⁴・岩月輝希⁴ (¹金沢大・院自然²金沢大・自然システム³金沢大・環日研セ⁴原子力機構)

12:05-12:20 2A13

オキソ水酸化鉄鉱物へのウラニル吸着等温線の比較

○新井田佳吾¹・斉藤拓巳¹・田中知¹ (東大院工)

セッションG15 固体地球における水とその役割

コンビーナ: 岩森光・小木曾哲・石橋純一郎・野口直樹・益田晴恵

9:00-9:25 2B01(招待)

大地震前の地殻流体の挙動

○西尾嘉朗¹・風早康平²・安原正也² (¹海洋研究開発機構海底資源研究プロジェクト²産業技術総合研究所地質調査総合センター)

9:25-9:40 2B02

ホウ素同位体から明らかになった海底下の熱水鉱床形成プロセス

○山岡香子¹・松倉誠也²・石川剛志³・川幡穂高² (¹産総研地質情報²東大大気海洋研³JAMSTEC 高知コア研)

9:40-9:55 2B03

海底熱水域の硫化物に含まれる重晶石のESR年代測定

○豊田新¹・藤原泰成¹・磯野祐輔¹・佐藤文寛¹・内田乃¹・石橋純一郎²・中井俊一³・賞雅朝子³ (¹岡山理科大学²九州大理院³東京大地震研)

9:55-10:10 2B04

南部マリアナトラフの海底熱水鉱床における年代測定とその解釈

○賞雅朝子¹・中井俊一¹・石橋純一郎²・佐藤文寛³・豊田新³ (¹東京大学地震研究所²九州大学³岡山理科大学)

<休憩> 10:10-10:25

10:25-10:50 2B05(招待)

電気伝導度から見た地球内部の水

○芳野極¹ (¹岡山大地球研)

10:50-11:05 2B06

含水スラブマントルによるハロゲンと希ガスの沈み込み過程

○角野浩史¹・小林真大¹・清水綾²・D. Chavrit³・R. Burgess³・木村純一⁴・C.J. Ballentine³ (¹東大院理²都産技研³マンチェスター大⁴海洋研究開発機構)

11:05-11:20 2B07

東北日本火山岩の²³⁸U-²³⁰Th放射非平衡

○横山哲也¹・岩森光¹・上木賢太¹ (東工大地惑)

11:20-11:35 2B08

火山フロント下マントル由来かんらん岩中にトラップされたH₂O 流体の塩濃度: マントル交代作用との関係

○石丸聡子¹・熊谷仁孝²・川本竜彦²・荒井章司³・水上知行³・山本順司⁴・Okrugin, V.M.⁵ (¹熊本大院自然²京都大地球熱学³金沢大理工自然システム⁴北海道大総合博物館⁵ロシア科学アカデミー)

11:35-11:50 2B09

北海道神居古潭帯岩内岳超塩基性岩体にみられる2段階の蛇紋岩化作用について

○三好茜¹・小木曾哲¹ (京都大学大学院人間環境学研究科)

第2日目(9月12日) 午前

【C会場】 午前

セッション S6 地球化学と生理学・生化学:生理学的知見からみる地球化学

球化学

コンピーナ: 沢田健・カ石嘉人・中村英人

8:30-9:00 2C01(招待)

地球化学における有機分子の分子内炭素同位体比分析の現状と展望
○山田柱大・Alexis Gilbert・吉田尚弘(東工大総理工)

9:00-9:15 2C02

Isotopic ¹³C NMR Reveals Heterogeneity in the ¹³C-isotopomer distribution of Long-Chain n-alkanes (C₁₁-C₃₁)
○Alexis Gilbert・Keita Yamada・Naohiro Yoshida(Tokyo Institute of Technology)

9:15-9:45 2C03(招待)

海洋植物プランクトンの光合成炭素代謝の多様性
○辻敬典^{1,2}・白岩善博^{1,2}(筑波大学生命環境系・²JST CREST)

<休憩> 9:45-10:00

10:00-10:15 2C04

ハプト藻培養試料におけるステロイド分析:バイオマーカー指標の検討
○加納千紗都¹・沢田健¹・中村英人¹・白岩善博²・鈴木石根²・新家弘也²(¹北海道大学理学院・²筑波大学生命環境科学科)

10:15-10:30 2C05

ハプト藻の長鎖アルケン組成の多様性
○中村英人¹・沢田健¹・加納千紗都¹・白岩善博²・鈴木石根²・新家弘也²(¹北大院理学研究院・²筑波大院生命環境科学研究所)

10:30-10:45 2C06

珪藻*Proboscia*培養試料の長鎖ジオール・ヒドロキシエステル分析:珪藻バイオマーカー古水温計の検討
○沢田健¹・小林まどか¹・三枝樹慧¹・桑田晃²(¹北海道大学理学研究院・²東北区水産研究所)

10:45-11:00 2C07

グルタミン酸のアミノ基転移における窒素安定同位体分別:食物連鎖における¹⁵N濃縮反応の定量化にむけて
○後藤(桜井)晶子^{1,3}・三浦香純²・伊永隆史^{1,4}(¹首都大学東京理工学研究科・²首都大学東京都市教養学部・³現所属:金沢大学理工研究域・⁴現所属:千葉科学大学危機管理学部)

<休憩> 11:00-11:15

11:15-11:30 2C08

アミノ酸窒素安定同位体比を用いた浮き魚の栄養段階の決定と食物網構造
○宮地俊作¹・對馬孝治¹・伊藤絹子²・川端淳³・小川奈々子⁴・カ石嘉人⁴・大河内直彦⁴(¹日本大学大学院生物資源科学研究科・²東北大学院農・³水産研究センター中央水産研究所・⁴独立行政法人海洋開発機構)

11:30-11:45 2C09

アミノ酸窒素同位体比によるバイカル湖生態系の解析
○小川奈々子¹・カ石嘉人¹・和田英太郎^{1,2}・大河内直彦¹(¹海洋研究開発機構・²水産総合研究センター中央水産研究所)

11:45-12:00 2C10

日本周辺の深海化学合成生態系に生息するシンカイヒバリガイ属とエラウロコムシ亜科の共生について
○高橋幸愛^{1,2}・藤倉克則²・三宅裕志¹・カ石嘉人²・土屋 正史²・渡部裕美²・丸山正²(¹北里大学大学院・²海洋研究開発機構)

12:00-12:15 2C11

アミノ酸の窒素同位体比を用いた生物の栄養段階解析:共生系へアプローチ
○カ石嘉人・土屋正史(海洋研究開発機構)

セッションG2 古気候・古環境解析の地球化学(2)
コンピーナ:入野智久・渡邊剛・中塚武・横山祐典・原田尚美

8:30-8:45 2D01

JAMSTEC コアデータサイトの紹介
○佐藤悠介・富山隆将(海洋研究開発機構)

8:45-9:00 2D02

北西オーストラリア海洋堆積物を用いた堆積環境の推定
○石輪健樹^{1*}・横山祐典¹・宮入陽介¹・鈴木淳²・池原実³・Obrochta Stephen¹・池原研²・木元克典⁴・Julien Bourget⁵・松崎浩之⁶(¹東京大学大気海洋研究所・²独立行政法人産業技術総合研究所地質情報研究部門・³高知大学海洋コア総合研究センター・⁴独立行政法人海洋研究開発機構・⁵西オーストラリア大学・⁶東京大学工学系研究科)

9:00-9:15 2D03

北大西洋第四紀海洋堆積物に記録された水銀量気候変動
○宮川千鶴¹・山下剛史¹・水田麻美¹・北逸郎¹・長谷川英尚²・千代延 俊³・佐藤時幸⁴(¹九大比文・²環技研・³RITE・⁴秋大工資)

9:15-9:30 2D04

放射性同位体²³⁰Thを用いたチリ沖における最終氷期以降の生物起源粒子フラックスの変化
○福田美保^{1,2}・原田尚美²・佐藤都²・Carina B. Lange³・阿波根直一²・Silvio Pantoja³・川上創²・本山功⁴(¹筑波大・地球進化・²海洋研究開発機構・³Univ. of Concepción・⁴山形大・地球環境)

9:30-9:45 2D05

氷期海洋深層水の炭酸イオン濃度の定量的復元-氷期炭素レザバールの探求-
○岩崎晋弥¹・岡崎裕典¹・木元克典²(¹九州大院理・²海洋研究開発機構)

9:45-10:00 2D06

氷期-間氷期サイクルにおける大陸棚有機物によるpCO₂フィードバック
○牛江裕行¹・松本克美²(¹東大大気海洋研・²ミネソタ大地球科学部)

<休憩> 10:00-10:15

10:15-10:30 2D07

宇宙線照射生成核種Be-10・Al-26の深度プロファイルを用いた侵食速度の評価
○中村淳淳^{1,2}・横山祐典^{1,2,3}・宮入陽介¹・城谷和代⁴・松崎浩之⁵・鈴木淳⁴(¹大気海洋研究所・²東京大学地球惑星科学専攻・³JAMSTEC・⁴産総研・⁵東京大学工学部)

10:30-10:45 2D08

約250万年前の北大西洋堆積物に基づく大陸氷床拡大期の気候変動のミレニアム解析
○水田麻美¹・山下剛史¹・北逸郎¹・大野正夫¹・桑原義博¹・林 辰弥²・佐藤時幸³(¹九大比文・²国科博・³秋大工資)

10:45-11:00 2D09

白亜紀-古第三紀(K-Pg)境界粘土層に含まれる銀及び銅含有粒子の化学状態分析
○丸岡照幸¹・西尾嘉朗²・小木曾哲³・鈴木勝彦²(¹筑波大・生命環境・²海洋研究開発機構・³京大)

11:00-11:15 2D10

オスミウム同位体からみた地中海メッシニアン塩分危機
○黒田潤一郎¹・Francisco J. Jimenez-Espejo^{1,2}・野崎達生¹・鈴木勝彦¹(¹海洋研究開発機構・²グラナダ大学)

11:15-11:30 2D11

高周波誘導加熱による生物源オパール¹の酸素同位体比測定
○岡崎裕典¹・井尻暁²・山根雅子³(¹九州大院理・²海洋研究開発機構高知コア研・³東京大学大気海洋研)

11:30-11:45 2D12

酸素同位体比は降水量変動のプロキシなのか?
○栗田直幸(海洋研究開発機構地球環境変動領域)

11:45-12:00 2D13

海藻試料を用いた北海道及び北東北地域の放射性炭素海洋リザーバー効果地補正値-海流の影響の検証-
○宮入陽介¹・横山祐典¹・松崎浩之²(¹東大大気海洋研・²東大院工)

第2日目(9月12日) 午前

【E会場】 午前

セッションS1 東アジアの環境と地球化学
コンビーナ:石橋純一郎・宇都宮聡

9:00-9:30 **2E01**(招待)

微小大陸の多重衝突とアジア大陸形成過程
○小山内康人・中野伸彦(九大比文地球変動)

9:30-9:45 **2E02**

鉛同位体比および化学組成分析に基づく福岡大気降水物の起源の検討
○柄澤尚人・木川田喜一・大井隆夫・廣瀬勝己(上智大)

9:45-10:00 **2E03**

北部九州脊振山頂にて採取された風送塵(黄砂)のSr・Nd 同位体組成:
起源と季節変化の指標として
○宮本知治・浜本礼子・柳哮(九州大院理)

<休憩> 10:00-10:15

10:15-10:45 **2E04**(招待)

物質輸送モデルによるアジア域のソース・リセプター解析
○鶴野伊津志(九州大学応用力学研究所)

10:45-11:00 **2E05**

波照間で観測されるCO₂, CH₄, CO の相関関係から推定される東アジア
からの発生量の経年変化
○遠嶋康徳¹・久保恵美²・峰島知芳³・向井人史¹・谷本浩志¹・勝又啓一¹・
町田敏暢¹・北和之²・A. Ganshin⁴・S. Maksyutov¹(¹国環研・²茨城大・³農工
大・⁴CAO)

11:00-11:15 **2E06**

黄砂粒子中の鉄マルチサイズ解析によるエアロゾル-海洋-気候フィード
バック機構への影響評価
○金子誠¹・仲松有紀¹・Zhouqing, Xie²・宇都宮聡¹(¹九州大院理・²中国科
学技術大理)

11:15-11:30 **2E07**

都市大気微粒子中の鉄の化学状態と生体影響
○仲松有紀・金子誠・古川雅志・宇都宮聡(九州大院理)

11:30-12:00 **2E08**(招待)

アジア地域の環境地球化学マップ事業
○中野孝教(総合地球環境学研究所)

第2日目 (9月12日) ポスターセッション
F会場 生協文系食堂, コアタイム 13:30~15:00

セッションG2 古気候・古環境解析の地球化学

2P01

石筍の希土類元素パターン:供給源と速度論的効果
○堀真子¹・石川剛志²・永石一弥³・狩野彰宏⁴・游鎮烽¹・黄國芳¹・沈川洲⁵
(¹成功大学²高知コア研究所³マリンワークジャパン⁴九州大学⁵台湾大学)

2P02

過去の土地利用と植生変化が石筍の成長速度に及ぼす影響について
内田章太¹・栗崎弘輔¹・諏訪勝郎²・原口聡²・能登征美³・吉村和久¹(¹九大院理²西海市教育委員会³九電産業)

2P03

サンゴ骨格中微量元素分析法の検証~レーザーアブレーション誘導結合プラズマ質量分析法と溶液による分析法の比較~
○川久保友太¹・横山祐典¹・鈴木淳²・岡井貴司²・Chantal Alibert³・Leslie Kinsley³・Stephen M Eggin³(¹東大大気海洋研²産総研地質情報³オーストラリア国立大地球科学研)

2P04

軟X線μ-XRF/XAS法による生物骨格中微量軽元素の化学形態分析
○為則雄祐¹・吉村寿紘²・Luan Trong Nguyen³・長谷川浩³・岩崎望⁴・鈴木淳⁵・川幡穂高²(¹JASRI SPring-8²東大大気海洋研³金沢大理工⁴立正大地球環境⁵産総研地質情報)

2P05

Diet effect on δ¹³C of land snail (*Helix aspersa*) shell carbonate
○Naizhong Zhang・Keita Yamada・Naohiro Yoshida (Tokyo Institute of Technology)

2P06

鉄マンガクラストのOs同位体比層序
○後藤孝介¹・野崎達生²・鈴木勝彦²・得丸絢加³・臼井朗⁴・常青²・木村純一²・浦辺徹郎³・NT09-02およびKY11-02航海乗船者一同(¹産総研²海洋研究開発機構³東大⁴高知大)

2P07

拓洋第5海山におけるマンガクラストの主要構成元素(Fe, Mn)と含有有用元素(Co)の時間・空間変動
○佐藤久晃¹・臼井朗¹・西圭介¹・田中真理子¹・Ian Graham²(¹高知大学²GNS)

2P08

流星海山におけるマンガクラストの古海洋環境記録としての可能性
○西圭介¹・臼井朗¹・佐藤久晃¹・坂口綾²・井上美南²・松崎浩之³(¹高知大学²広島大学³東京大学)

2P09

北海道利尻島泥炭コアの¹⁴C年代と²¹⁰Pb年代の差異
河野麻希子¹・南雅代²・谷水雅治³・浅原良浩¹・細野高啓⁴・中村俊夫²(¹名大院環境²名大年測セ³JAMSTEC高知⁴熊本大院先導機構)

2P10

近過去における湖沼の環境変動を評価するための地球化学的手法の検討
○大元皓平¹・千葉仁¹・兵藤不二夫²(¹岡山大院自然科学研究科²岡山大異分野融合先端研究コア)

2P11

大分県大野川流域土壌の鉱物組成変動その別府湾堆積物への影響
○入野智久¹・山本正伸¹・池原研²・竹村恵二³・加三千宣⁴ (¹北大院地球環境²産総研地質情報³京大⁴愛媛大)

2P12

重金属元素同位体比を指標とした泥炭コア試料中の人為起源大気放出亜鉛の定量的解析
河野麻希子¹・谷水雅治²(¹名大院環境²海洋機構高知)

2P13

カリフォルニア沖堆積物におけるホバンの組成の変動と古環境
○中国正寿¹・関宰²・山本修一¹・石渡良志³・ODP Leg167 乗船研究者一同(¹創価大大学院²北海道大低温研³東京都立大名教授)

2P14

モンゴル・ダルハド盆地堆積層中のウラン・トリウム同位体
○村上拓馬¹・山本政儀¹・淵崎円香²・福土圭介¹・長尾誠也¹・柏谷健二¹(¹金沢大環日研セ²金沢大院自然)

2P15

四国海盆半遠洋性堆積物のSr-Nd-Pb同位体比による供給源解析
○齋藤有¹・石川剛志²・谷水雅治²・村山雅史¹(¹高知大海洋コア²JAMSTEC高知コア研)

2P16

東赤道太平洋における過去40Maの陸上植物由来脂肪酸の安定炭素同位体比変動
○山本真也^{1,2*}・沢田健³・中村英人³・小林まどか³・河村公隆¹(¹北大低温研²現所属:山梨県環境科学研究所³北大理)

セッション G11 現世および過去の有機物・微生物・生態系の地球化学

2P17

Montmorillonite層間における交換性陽イオン(Na⁺, Ca²⁺, Mg²⁺)とグリシンの反応とそのpH依存性
○淵田茂司・益田晴恵・水野友貴(大阪市立大学理学研究科)

2P18

サポナイトに吸着したグリシンの脱水環境下におけるペプチド合成
○水野友貴・淵田茂司・益田晴恵(大阪市立大学大学院)

2P19

コマチアイトの熱水変質実験による水素発生過程の解明
○吉崎もと子^{1,2}・渋谷岳造²・鈴木勝彦²・清水健二²・中村謙太郎²・大森聡一³・高井研²・丸山茂徳¹(¹東工大院地惑²海洋研究開発機構³放送大学)

2P20

白馬八方温泉の水素同位体システムティックス-蛇紋岩熱水系のメタンの起源-
○須田好¹・丸山茂徳¹・上野雄一郎¹・大森聡一⁴・吉崎もと子¹・黒川顕²・西山依里²・吉野弘二²・本郷裕一³・河内賢一³(¹東工大院地球惑星²東工大院生命情報³東工大院生体システム⁴放送大)

第2日目 (9月12日) ポスターセッション
F会場 生協文系食堂, コアタイム 13:30~15:00

2P21

顕微赤外分光法による南中国瓮安地域から産出した微化石のキャラクタリゼーション

○伊規須素子¹・小宮剛²・上野雄一郎³・中嶋悟⁴・丸山茂徳³・高井研¹(¹海洋研究開発機構・²東大駒場・³東工大・⁴阪大)

2P22

環境変化に伴う好熱好酸性古細菌テトラエーテル脂質の環化率変動

○平野恭介・北島富美雄(九大院理)

2P23

有機化合物組成および炭素・窒素安定同位体比から見た当幌湿原の形成史の解析

○園田和彦・山崎慎一郎・村田朋也・山本修一(創価大・大学院)

2P24

北部九州河口域表層堆積物フミン酸構造の環境による変化

○岩本佑耶・山内敬明・奈良岡浩(九大院理・地球惑星)

セッションG16 地球化学の人文科学への応用

2P25

イネのSr同位体比と生育地の地質との関係

○長谷和磨¹・南雅代²(¹名大院環境・²名大年代測定セ)

セッションG12 水圏環境化学

2P26

山地森林流域における渓流水質の全国分布とその環境因子の評価

○池田英史・石井孝・今村正裕・中野大助・山本亮介(電力中央研究所)

2P27

秋田県玉川温泉由来重金属類の河川流域への分布に対するダムの影響

○小川泰正¹・石山大三²・鹿園直建³・土屋範芳¹(¹東北大院環境科学・²秋田大工学資源・³慶応義塾大理工)

2P28

モンゴル国ボロー金鉱山地域における重金属汚染調査

○永田啓晃¹・東田和弘²・山本鋼志¹(¹名古屋大学環境学研究所・²名古屋大学博物館)

2P29

赤城火山および足尾山地南部における温泉の水質および安定同位体比とその地質鉱物学的解釈

○村松容一¹・大平孟¹・千葉仁²・早稲田周³(¹東理大理工・²岡山大理・³石油資源開発(株)技研)

2P30

大阪平野地下水へのヘリウムの蓄積に関する研究(ヘリウム同位体による地下水年代測定の精密化に向けて)

○森川徳敏¹・戸崎裕貴¹・高橋浩¹・安原正也¹・風早康平¹・仲間純子¹・三田村宗樹²・益田晴恵²(¹産総研地質情報研究部門・²大阪市立大学)

2P31

底質中の元素濃度と化学状態を用いた東京湾における貧酸素水塊の経年評価

○山形武広¹・起孝志¹・小豆川勝見¹・奥村良²・高宮幸一²・松尾基之¹(¹東大院総合・²京大原子炉)

2P32

硫黄同位体比から見た中国地方の酸性降水物の起源

○淀瀬達也・千葉仁(岡山大学大学院自然科学研究科)

2P33

酸素配位のハードな配位子に対する金属イオンの反応性の精密評価

○宮地亜沙美・高橋嘉夫(広島大・院理)

セッションS2, S3 水-岩石相互作用・二酸化炭素隔離の地球化学

2P34

新規開発した地化学サンブラーによるカメルーン国ニオス湖水中のCO₂濃度測定

○小澤晃子¹・上田晃²・吉田裕³・日下部実²・大場武⁴・Y. W. Fantong⁵・G. Tanyileke⁵・J. V. Hell⁶(¹三菱マテリアルテクノ・²富山大院・³吉田技術士事務所・⁴東海大・⁵IRGM)

2P35

Stable isotope study of groundwaters around Lake Nyos (North-western Cameroon)

○T. B. Kamtchueng¹・W. Y. Fantong²・K. Anazawa³・A. Ueda¹・M. Kusakabe¹・T. Ohba⁴・G. Tanyileke²・J. V. Hell²(¹Univ. of Toyama・²IRGM・³Univ. of Tokyo・⁴Tokai Univ.)

2P36

新潟県松之山温泉の地球化学的研究(予察)

○笹木康平・伊藤優花・竹内章・上田 晃(富山大院・理工)

2P37

CO₂制御工学における炭酸塩溶解の役割

○大隅多加志(電中研)

2P38

海底下CCSIにおけるCO₂漏洩モニタリング-英国QICSプロジェクト-

下島公紀¹・○坂本敦史¹・前田義明²(九州大学WPI-I²CNER・²一般財団法人電力中央研究所)

2P39

水-超臨界CO₂混合流体の物理特性

○北村圭吾・藤川茂紀・下島公紀(九州大WPI-I²CNER)

2P40

地化学的CO₂トラップに対応したモニタリング

○辻健¹・薛自求²(九州大学WPI-I²CNER・²地球環境産業技術研究機構)

第2日目 (9月12日) ポスターセッション
F会場 生協文系食堂, コアタイム 13:30~15:00

セッションG1 大気微量成分の地球化学

2P41

Vertical distribution of concentration and isotopomer ratios of N_2O in tea field in Shizuoka, Japan

○Yun Zou¹・Yuhei Hirono²・Yosuke Yanai²・Shohei Hattori¹・Sakae Toyoda¹・Naohiro Yoshida¹ (¹Tokyo Institute of Technology・²NARO Institute of Vegetable and Tea Science)

2P42

Analysis of production and consumption mechanisms of N_2O during standard wastewater treatment using isotopomer ratios

○Azzaya Tumendelger・Sakae Toyoda・Naohiro Yoshida (Tokyo Institute of Technology)

2P43

植物葉上に蓄積した硝酸の同位体的特徴と森林における窒素循環解析への適用

○向高新・豊田栄・吉田尚弘 (東京工業大学総合理工学研究科)

2P44

札幌における低分子モノカルボン酸の季節変動及びガス-エアロゾル相の分配

○中村進之介^{1,2}・河村公隆² (¹北大院環境科学院・²北大低温研)

2P45

One-year observations of organic carbon, elemental carbon, water soluble organic carbon, and major ions in marine aerosols from Okinawa Island, Japan, an outflow region of Asian dust

○Bhagawati Kunwar・Kimitaka Kawamura (Hokkaido University)

2P46

能登半島における微小エアロゾルの雲凝結核能と化学成分の同時測定

○岩本洋子¹・木ノ内健人²・松木篤¹ (¹金沢大環日研セ・²金沢大・理工)

セッションG9 地球外物質・宇宙惑星化学

2P47

消滅核種を用いたCO及びCVコンドライト隕石中のCAIの年代学、および重元素安定同位体に関する研究

○明星邦弘¹・横山哲也¹・佐野有司²・高畑直人²・杉浦直治³ (¹東京工業大学地球惑星科学専攻・²東京大学大気海洋研・³東京大学地球惑星科学専攻)

2P48

月高地由来の斜長岩質角レキ岩隕石(MIL 090034, 090036, 090070)の岩石学的特徴と形成過程

○山口亮¹・白井直樹²・海老原充² (¹極地研・²首都大)

2P49

プレソーラー粒子の²³⁸U/²³²Th比および²³⁸U/²³⁵U比の測定に向けた極微量U・Th同位体測定技術の開発

○渡辺龍哉・横山哲也 (東工大地惑)

2P50

大きなマグネシウム同位体分別を示すヒポナイト包有物中の難揮発性金属粒子

○福田航平・比屋根肇 (東大院・理)

2P51

炭素質コンドライトおよび月試料の局所同位体測定におけるSm同位体組成

○池田直子・日高洋 (広島大院理)

2P52

Triton-plusを用いた超高精度¹⁴²Nd/¹⁴⁴Nd比測定法の開発

○高橋宏和・横山哲也 (東京工業大学地球惑星科学専攻)

2P53

ダブルスパイクを用いた隕石試料の高精度⁸⁴Sr/⁸⁶Srおよび⁸⁸Sr/⁸⁶Sr比分析手法の開発

○奥井航・横山哲也 (東工大地惑)

第2日目 (9月12日) 午後
G会場 大講義室

総会

15:00-16:45

受賞講演

座長: 角皆潤

16:45-17:10 **2G01**(奨励賞)

還元性気体に注目した深海底環境生態系に関する地球化学的研究

川口慎介(海洋研究開発機構)

座長: 原田尚美

17:10-17:35 **2G02**(奨励賞)

石英結晶の物理的特性に基づく風成塵供給源推定法の確立と古気候復元への応用

長島佳菜(海洋研究開発機構)

座長: 比屋根肇

17:35-18:05 **2G03**(学会賞)

初期太陽系の年代学・物質進化に関する研究

杉浦直治(東京大学)

第3日目(9月13日) 午前

【A会場】 午前

【B会場】 午前

セッションG9 地球外物質・宇宙惑星化学(1)
コンビーナ: 塚本尚義・若木重行・馬上謙一

8:30-8:45 3A01

はやぶさ2サンプルリターン計画開発現状
○橋省吾¹・澤田弘崇²・岡崎隆司³・安部正真²・吉川真²・はやぶさ2サンプルチーム^(1 北大院理²JAXA³九大院理)

8:45-9:00 3A02

熱分解を用いたマーチソン隕石に含まれる不溶性有機物の化学構造と同位体分布の検討
○三村耕一¹・奥村文章²^(1名古屋大学環境学研究所²石油資源開発株式会社)

9:00-9:15 3A03

宇宙環境下でのアミノ酸関連分子の安定性と変成一地上実験と宇宙実験による評価
○小林憲正¹・三田肇²・川本幸徳¹・岡部拓人¹・江藤碧¹・Sarker Palash¹・金子竹男¹・大林由美子¹・神田一浩³・吉田聡⁴・山岸明彦⁵・たんぼぼ WG⁶^(1横浜国立大学²福岡工業大学³兵庫県立大学⁴放射線医学総合研究所⁵東京薬科大学⁶宇宙航空研究開発機構)

9:15-9:30 3A04

ペプチドの生成場としての彗星衝突
○菅原春菜¹・三村耕一¹^(1名大院環境)

9:30-9:45 3A05

マーチソン隕石、NWA 801隕石中の有機物粒子の同位体組成と形状
○橋口未奈子¹・小林幸雄²・塚本尚義^{1,2}^(1北大院理²北大創成研究機構)

<休憩> 9:45-10:00

10:00-10:15 3A06

扁平したコンドリュールを含むCM炭素質隕石
○中村智樹¹・中藤亜衣子¹・宮原正明¹・吉岡勝樹¹・上相真之²・上杉健太郎³・Cecile Engrand⁴^(1東北大院理²宇宙研³JASRI/SPring-8⁴Univ Paris Sud)

10:15-10:30 3A07

Origin of a sapphirine-bearing Al-rich chondrule in the DaG 978 ungrouped chondrite
○Aicheng Zhang^{1,2}・伊藤正一²・坂本直哉²・塚本尚義²・Rucheng Wang¹^(1Nanjing University²北海道大学)

10:30-10:45 3A08

Shocked L5/6コンドライト隕石MbaleのU-Pbシステムティックス
○寺田健太郎^{1,2}・伊勢田大輔²^(1大阪大学理²広島大学・理)

10:45-11:00 3A09

普通コンドライト金属相に見られる親鉄性元素パターンの成因について
○横山隆臣¹・平田岳史¹^(京都大院地惑)

11:00-11:15 3A10

小惑星イトカワから回収された粒子の化学組成
○海老原充¹・白井直樹¹・関本俊²・中村智樹³・土山明⁴^(1首都大大理工²京大原子炉³東北大大理⁴京大大理)

セッションG1 大気微量成分の地球化学
コンビーナ: 谷本浩志・豊田栄・松本潔・持田陸宏・角皆潤

8:30-9:00 3B01(招待)

大気中一酸化二窒素の全球モデリング
○石島健太郎¹・Prabir Patra¹・滝川雅之¹・須藤健悟^{1,2}・町田敏伸³・松枝秀和⁴・澤庸介⁴・青木周司⁵・中澤高清^{1,5}・豊田栄⁶・吉田尚弘⁶・遠嶋康徳³・伊藤昭彦³^(1JAMSTEC²名古屋大³国環研⁴気象研⁵東北大⁶東工大)

9:00-9:15 3B02

ガス状亜硝酸における三酸素同位体異常の発見
○大山拓也¹・角皆潤¹・小松大祐¹・中川書子²・野口泉³・山口高志³^(1名大院環境²北大院理³道総研環境科学研究センター)

9:15-9:30 3B03

大気から沈着する窒素と衰退した森林生態系の相互作用定量化
○角皆潤¹・小松大祐¹・鈴木敦之²・中川書子²・福澤加里部³・柴田英昭³・高木健太郎³・野村睦³^(1名大院環境²北大院理³北大FSC)

9:30-9:45 3B04

利尻における積雪下褐色森林土壌からの二酸化炭素フラックス
○朱春茂¹・中山桃子²・吉川久幸³^(1北大院環境²ウェザーニューズ³北大地球環境)

<休憩> 9:45-10:00

10:00-10:30 3B05(招待)

黄砂の長距離輸送に伴うバイオエアロゾルの性状変化
松木篤¹・小林史尚²・牧輝弥²・柿川真紀子¹・山田丸³・岩坂泰信⁴^(1金沢大環日研セ²金沢大・理工³安衛研⁴滋賀県大)

10:30-10:45 3B06

エアロゾル質量分析計に基づく名古屋都市エアロゾル中の含窒素・含硫黄有機物の解析
○瀬戸口義貴¹・川名華織¹・中山智喜²・池田裕香²・澤田祐希²・松見豊²・持田陸宏¹^(1名古屋大学大学院環境学研究所²名古屋大学太陽地球環境研究所)

10:45-11:00 3B07

大気中の亜鉛の起源と動態: 化学種解析に基づく同位体分別の解釈から
藤原将智¹・谷水雅治^{1,2}・高橋嘉夫^{1,2}^(1広島大院理²JAMSTEC)

第3日目(9月13日) 午前

【D会場】 午前

【C会場】 午前

セッション G10 同位体効果研究の地球化学への応用

コンピーナ: 武蔵正明・大井隆夫・野村雅夫・谷水雅治

8:30-8:50 3C01(招待)

クロマトグラフィを用いた化学反応における同位体効果の研究
○鈴木達也(長岡技大原子力安全系)

8:50-9:05 3C02

分子シミュレーションによるホウ素同位体効果への圧力影響研究
市川寛之¹・○武蔵正明²・三上益弘³・都築誠二³・松尾基之⁴・大井隆夫¹
(¹上智大理工・²首都大化³産総研計算科学⁴東大院総合)

9:05-9:20 3C03

ミズゴケに保持された水の同位体的特徴 一搾取水の同位体比変化をもたらす水循環
○大木誠吾¹・陣野宏宙¹・赤木右¹・Lars Franzén²(九州大学理²Göteborg Univ.)

9:20-9:40 3C04(招待)

炭酸塩の炭素・酸素二重置換同位体分子研究の現状と課題
○阿部理(名古屋大院環境)

<休憩> 9:40-9:55

9:55-10:10 3C05

水の蒸気圧同位体効果に及ぼす塩添加の効果
○森本宏昭・大井隆夫(上智大・理工)

10:10-10:25 3C06

炭酸塩沈澱時のアルカリ土類金属元素同位体分別: 結晶多形が同位体効果に及ぼす影響
○大野 剛¹・Ed Tipper²・Albert Galy³・平田岳史⁴(¹学習院大²Univ. St Andrews³Univ. Cambridge⁴京大)

10:25-10:40 3C07

極低温表面における過酸化水素と水素原子の反応による水生成とその同位体効果
○大場康弘・渡部直樹・香内晃(北大低温研)

10:40-11:55 3C08

二酸化硫黄の光励起反応は大規模火山噴火後の成層圏硫酸エアロゾルに見られる硫黄-MIFを説明できるか
○服部祥平¹・J.A. Schmidt²・M.S. Johnson²・S.O. Danielache¹・山田明憲³・上野雄一郎¹・吉田尚弘¹(¹東京工業大学²コペンハーゲン大学³東京大学)

10:55-11:15 3C09(招待)

同位体の核の体積効果と Born-Oppenheimer 近似補正を考慮する相対論的理論の構築
○阿部穰里・根本佳介・今福裕史・波田雅彦(首都大理工)

セッションG12 水圏環境地球化学

コンピーナ: 板井啓明・坂田昌弘・太田充恒・高橋嘉夫

8:30-8:45 3D01

福島第一原子力発電所から放出された放射性セシウム中の河川系碎屑物における挙動
○岩谷北斗¹・高橋嘉夫¹・坂口 綾¹・田中万也²・Qiaohui Fan¹・恩田裕一³・加藤弘亮³(¹広島大院理²広島大ISSD³筑波大院・生命環境)

8:45-9:00 3D02

Mobility of radiocaesium in Fukushima soil: Effect of organic matters
○Q. H. Fan¹・H. Iwatani¹・K. Tanaka¹・A. Sakaguchi¹・Y. Takahashi (Hiroshima Univ.)

9:00-9:15 3D03

東京湾底質における福島第一原発事故由来の放射性セシウムの濃度変化に関する研究
○添盛晃久¹・小豆川勝見¹・山形武広¹・野川憲夫²・松尾基之¹(¹東大院総合文化²東大アイントゥーブ総合センター)

9:15-9:30 3D04

HPLC-ICP-MSを用いた環境水中のヨウ素の化学形態別分析
○岡部宣章¹・村松康行¹・大野剛¹・川口慎介²・蒲生俊敬³(¹学習院大理²海洋研究開発機構³東大大海研)

9:30-9:45 3D05

有機ヒ素化合物のフェリハイドライトに対する吸着構造
○田中雅人・高橋嘉夫(広島大院理)

<休憩> 9:45-10:00

10:00-10:15 3D06

南アジアの河床堆積物のヒ素の固定物質と運搬過程
○近岡史絵¹・益田晴恵¹・篠田圭司¹・川端穂高²・真中卓也²・鈴木淳³(大阪市立大理¹東京大気海洋研²産総研³)

10:15-10:30 3D07

素過程に基づく化学風化モデルを用いた化学風化速度および河川水組成の推定
○野津太一¹・田近英一^{1,2}(¹東大院・理²東大院・新領域)

10:30-10:45 3D08

琵琶湖北湖底泥中間隙水の化学組成にもとづくMn・Asの鉛直拡散フラックスの推定
○板井啓明¹・兵部唯香¹・熊谷道夫^{2,3}・田辺信介¹(¹愛媛大沿岸研セ²琵琶湖環境研セ³立命館大Σ研究セ)

10:45-11:00 3D09

二枚貝(オキシジミ)の部位別金属元素組成
伊藤由喜¹・○山本綱志¹・林誠司(名古屋大学大学院環境学研究科)

11:00-11:20 3D10(招待)

地下水中の合成甘味料をトレーサーとした熊本地域の水流動機構の推定と人為影響評価の可能性
○中田晴彦¹・折式田崇仁¹・細野高啓²・利部慎¹・小野昌彦¹・徳永貴大¹・嶋田純¹(¹熊本大院自科研²熊本大院先導機構)

第3日目(9月13日) 午前

【E会場】 午前

セッションS4 ケイ酸およびケイ酸錯体の地球化学
コンビーナ: 横山拓史・赤木右

8:30-8:45 **3E01**

ケイ酸および亜鉛イオンの水酸化アルミニウムに対する吸着挙動
○宮崎あかね¹・沼田麻由美¹・江藤真由美²・横山拓史²(¹日女大理・²九大院理)

8:45-9:00 **3E02**

ケイ藻生物ポンプのデジタルアクションIV 溶解速度論を応用した未変質ケイ藻オパール¹の化学組成
○江本真理子¹・赤木右¹・高橋孝三²(¹九州大理工・²北星学園大学社会福祉)

9:00-9:15 **3E03**

北鹿地域にみられる珪質堆積岩中のレアアースパターンと堆積環境の変遷
○大竹翼¹・山田亮一²・鈴木稜平¹・掛川武²(¹北大院工・²東北大院理)

9:15-9:30 **3E04**

有機物共存下における非晶質シリカの溶解挙動
○江藤真由美¹・岡上吉広¹・横山拓史¹(九州大理)

9:30-9:45 総合討論

<休憩> 9:45-10:00

セッションG11 現世および過去の有機物・微生物・生態系の地球化学 (1)

コンビーナ: 川幡穂高・奈良岡浩・山本正伸・高野淑識

10:00-10:15 **3E05**

FISH法とマイクロXAFS法を組み合わせた新しいバイオミネラル分析法(XAFS-FISH法)の開発
○光延聖¹・白石史人²・高橋嘉夫²・坂田昌弘¹(¹静岡県大環境研・²広島大・院理)

10:15-10:30 **3E06**

浮遊性有孔虫殻におけるリンと硫黄の分布
○吉村寿紘¹・黒柳あずみ¹・為則雄祐²・川幡穂高¹(¹東大大海研・²JASRI SPring8)

10:30-10:45 **3E07**

Montmorillonite表面におけるグリシンの重合化と水の影響
○淵田茂司¹・益田晴恵¹(大阪市立大学理学研究科)

10:45-11:00 **3E08**

隕石衝突における還元ガス生成に対する水蒸気量の影響
○古川善博¹・鮫島太郎¹・中沢弘基¹・掛川武¹(東北大学理学研究科地学専攻)

11:00-11:15 **3E09**

地震生命圏は実在する
○川口慎介(海洋研究開発機構)

11:15-11:30 **3E10**

メタン生成補酵素F430の測定法開発と応用
○金子雅紀¹・高野淑識¹・大河内直彦¹(海洋研究開発機構海洋・極限環境生物圏領域)

第3日目(9月13日)午後

【会場】午後

セッションG9 地球外物質・宇宙惑星化学(2)
コンピーナ: 塚本尚義・若木重行・馬上謙一

16:00-16:15 **3A24**

超高感度極微量質量分析システムを用いた希ガス同位体分析(II)
○馬上謙一¹・江端新吾¹・藤岡修²・坂口勲³・内野喜一郎⁴・石原盛男⁵・糸瀬悟⁶・松谷幸⁶・工藤政都⁶・塚本尚義¹(¹北大・²日本NI・³NIMS・⁴九大・⁵阪大・⁶日本電子)

12:30-12:45 **3A11**

火星の水の起源および地殻・マントル相互作用に関する地球化学的研究: 火星隕石のカンラン石メルト包有物からの制約
○臼井寛裕^{1,2,3}・C. M. O' D. Alexander⁴・J. Wang⁴・J. I. Simon²・J. H. Jones²
(¹東工大地惑・²JSC/NASA・³LPI/USRA・⁴DTM/CIW)

12:45-13:00 **3A12**

Zagamiからみつかったオリビンに富む岩相のRb-Sr同位体系
○三澤啓司¹・新原隆史²・C.-Y. Shih³・Y. D. Reese⁴・L. E. Nyquist⁵・米田成一⁶・山下浩之⁷・平田大二⁷(¹極地研・²CLSE-LPI・³ESCG/Jacobs Sverdrup・⁴ESCG/Muniz Eng.・⁵NASA-JSC・⁶国立科学博物館・⁷神奈川県立生命の星地球博物館)

13:00-13:15 **3A13**

月隕石(MIL 090034, 090036, 090070)の全岩化学組成に基づく月地殻の形成過程
○白井直樹¹・海老原充¹・山口亮²・関本俊³(¹首都大・²極地研・³京大原子炉)

13:15-13:30 **3A14**

玄武岩質ユークライト中ジルコンの形成環境の推定
○羽場麻希子¹・山口亮²・堀江憲路²・日高洋³(¹東大院理・²極地研・³広大院理)

13:30-13:45 **3A15**

Norton County隕石に見られる不均質な宇宙線照射履歴
○日高洋¹・米田成一²(¹広島大院理・²国立科博)

13:45-14:00 **3A16**

従来より短く測定された¹⁴⁶Smの半減期と¹⁴⁶Sm-¹⁴²Nd年代法を用いた太陽系年代への影響
○木下哲一¹・中西孝²・横山明彦²・M. Paul³・Y. Kashiv⁴・P. Collon⁴・C. M. Deibel⁵・B. DiGiovine⁵・J. P. Greene⁵・D. J. Henderson⁵・C. L. Jiang⁵・S. T. Marley⁵・R. C. Pardo⁵・K. E. Rehm⁵・D. Robertson⁴・R. Scott⁵・C. Schmitt⁴・X. D. Tang⁴・R. Vondrasek⁵(¹清水建設技術研究所・²金沢大理工・³Racah Inst. Phys., Hebrew Univ.・⁴Dep. Phys., Univ. Notre Dame・⁵Phys. Div., Argonne National Laboratory)

<休憩> 14:00-14:15

14:15-14:30 **3A17**

U-Pb年代既知エコンドライトのNb-Zr同位体学
○飯塚毅^{1,2}・アクラム・ワヒード³・アメリン・ユーリー²・ショーン・バクラー・マリア³(¹東大・²オーストラリア国立大・³マンチェスター大)

14:30-14:45 **3A18**

Al-Mg放射壊変系より推察するCAI-コンドリユール複合包有物の溶融条件
○若木重行^{1,2}・伊藤正一¹・田中剛³・塚本尚義¹(¹北大院理自然史・²JAMSTEC高知コア・³名古屋大年測セ)

14:45-15:00 **3A19**

コンドリユール形成環境の酸素同位体比の特徴
○牛久保孝行¹・木村真²・トラビス J. テナー¹・中嶋大輔¹・ジョン W. バレー¹・木多紀子¹(¹ウイスコンシン大学マディソン校・²茨城大学)

15:00-15:15 **3A20**

表面電離型質量分析計を用いた隕石のNi同位体分析
宮本恒・○山下勝行(岡山大学・自然科学研究科)

15:15-15:30 **3A21**

始原的なコンドライト隕石における超高精度モリブデン同位体比分析
○永井友一朗¹・横山哲也¹・Richard J. Walker²(¹東工大院地惑・²Dept. of Geology, Maryland Univ.)

15:30-15:45 **3A22**

LAL-MC-ICPMSIによる普通コンドライト構成物質の鉄同位体比測定
○岡林謙起¹・横山哲也²・昆慶明³・平田岳史¹(¹京都大学地球惑星科学専攻・²東京工業大学地球惑星科学専攻・³産総研地質調査総合センター)

15:45-16:00 **3A23**

光解離過程による太陽と太陽風の同位体分別
○山田明憲¹・南部伸孝²・小嶋稔¹(¹東大院理・²上智大学)

第3日目(9月13日)午後

【C会場】午後

【D会場】午後

セッションS2, S3 水-岩石相互作用・二酸化炭素隔離の地球化学
コンピーナ: 上田晃・鹿園直建・徂徠正夫・大隅多加志・水谷広・下島公紀

12:30-12:45 3C10

地化学・画像解析手法による富山県東部地域の地熱資源量解析
○笹木康平¹・小関武宏²・景山宗一郎²・村岡洋文³・張勁¹・中村省吾¹・上田晃¹(¹富山大学院理工²三菱マテリアルテクノ³弘前大北日本新エネルギー一研)

12:45-13:00 3C11

熱利用を目的とした富山県庄川扇状地地下水の地球化学的解析
○岩竹要¹・溝口俊明²・富山眞吾³・張勁¹・中村省吾¹・上田晃¹(¹富山大学院理工²富山県環境科学センター³三菱マテリアルテクノ)

13:00-13:15 3C12

熱利用のための黒部川扇状地地下水系の流動解析-基礎的研究
○平田大道¹・中易佑平¹・張勁¹・手計太一²・上田晃¹(¹富山大学院理工²富山県立大学環境工学科)

13:15-13:30 3C13

玄武岩を用いた水-岩石-CO₂反応の解析と応用
片山智弘・○鹿園直建(慶應義塾大学大学院)

13:30-13:45 3C14

カメルーン、ニオス・マヌーン湖の水質について
○大場武¹・佐々木由香¹・日下部実²・吉田裕³・上田晃²・穴澤活郎⁴・金子克哉⁵・宮縁育夫⁶・Issa¹・F.T. Aka⁷・W. Fantong⁷・G.Tanyileke⁷・J.V.Hell⁷(¹東海大学²富山大学³吉田技術士事務所⁴東京大学⁵京都大学⁶熊本大学⁷カメルーン国立地質調査所)

13:45-14:00 3C15

カメルーン共和国ニオス湖周辺の表流水および地下水の化学的性状
○穴澤活郎¹・上田晃²・大場武³・日下部実²・吉田裕⁴・Fantong, Y.W.⁵・Tanyileke, G.⁵・Hell, J.V.⁵(¹東京大学²富山大学³東海大学⁴吉田技術士事務所⁵カメルーン国立地質調査所)

14:00-14:15 3C16

溶存CO₂濃度の詳細測定によるカメルーン共和国ニオス湖のガス抜き効果の把握
○吉田裕¹・日下部実²・Issa^{3,4}・大場武³・上田晃²(¹吉田技術士事務所²富山大学³東海大学⁴カメルーン国立地質調査所)

<休憩> 14:15-14:30

14:30-14:45 3C17

カメルーン国ニオス湖水からのシデライト沈殿速度測定
○上田晃¹・小澤晃子²・吉田裕³・日下部実¹・大場武⁴・Fantong, Y.W.⁵・Tanyileke, G.⁵・Hell, J.V.⁵(¹富山大学院²三菱マテリアルテクノ³吉田技術士事務所⁴東海大⁵IRGM)

14:45-15:00 3C18

バクテリアを用いた炭酸塩鉱物沈殿現象の研究
○名生聡希¹・上田晃²・中村省吾³・吉田秀徳(富山大学院理工)

15:00-15:15 3C19

温泉地の石灰華の生成に寄与する要因の整理
○佐々木宗建・徂徠正夫(産総研地圏資源)

15:15-15:30 3C20

含CO₂泉での現場反応実験における各種炭酸塩鉱物の反応速度
○徂徠正夫・佐々木宗建(産業技術総合研究所)

15:30-15:45 3C21

二酸化炭素脱ガスにより誘導される炭酸カルシウム沈殿を再現する新たな速度則
○奥村知世・狩野彰宏(九州大院比較社会文化研究院)

15:45-16:00 3C22

社会地球化学的循環の始末をつける:炭素の場合
○水谷広(日本大学生物資源科学部)

16:00-16:15 3C23

二酸化炭素水和物の海底処分
○大隅多加志(電中研)

セッションG16 地球化学の人文科学への応用
コンピーナ: 丸岡照幸・北川浩之・宮田佳樹・南雅代

12:30-13:00 3D11(招待)

鉛同位体比から見た日本の戦国時代における鉛の流通
○平尾良光(別府大学文学部)

13:00-13:30 3D12(招待)

遺跡出土朱の産地推定のための同位体分析
○南武志¹・武内章記²・橋和也³・今津節生⁴(¹近畿大理工²国立環境研³理研⁴九州国博)

13:30-13:45 3D13

前方後円墳発生期における朱の交易—Iオウ同位体比分析による産地推定を通して—
○河野摩耶¹・南武志²・今津節生³(¹慶應大院文学研²近畿大院総合理工学³九州国立博物館)

13:45-14:00 3D14

スズ同位体比による青銅器のリサイクル使用の検証
山崎絵里香^{1,2}・○中井俊一¹・Sahoo YuVin¹・横山哲也²(¹東京大学地震研究所²東京工業大学)

14:00-14:15 3D15

河川堆積物を用いた全国地質Sr同位体比マップ—産地推定のための基礎データ—
○南雅代¹・城森由佳²・長谷和磨³・太田充恒⁴・今井登⁴(¹名大年代測定セ²名大院環境³名大・理⁴産総研)

<休憩> 14:15-14:30

14:30-15:00 3D16(招待)

遺跡出土骨資料の同位体分析からみた縄文時代人の食生態と適応戦略
○米田稯¹・覚張隆史¹・内藤裕一²・力石嘉人²・大河内直彦²(¹東京大総合研究博物館²JAMSTEC海洋極限環境生物圏領域)

15:00-15:15 3D17

海岸部遺跡出土土器試料による縄文時代後半期の海産物利用の復元
○宮田佳樹¹・堀内晶子²・中村賢太郎³・黒沼保子³・増山禎之⁴・南雅代¹・中村俊夫¹・Richard Evershed⁵(¹名大年代測定センター²国際基督教大学³(株)パレオ・ラボ⁴愛知県田原市教育委員会⁵Bristol大学)

15:15-15:30 3D18

日本における過去3000年の定量的気温復元, 西日本編
○川幡穂高¹・松岡めぐみ¹・戸上亜美¹・原田尚美²・木元克典²・横山祐典¹・田中裕一郎³・加三千宣⁴(¹東京大学²JAMSTEC³産総研⁴愛媛大学)

15:30-15:45 3D19

長崎県七釜鍾乳洞石筍に記録された土地利用変遷
○吉村和久¹・内田章太¹・栗崎弘輔¹・石原与四郎²・原口聡³・山中寿朗⁴・能登征美⁵(¹九大院理²福岡大理工³西海市役所⁴岡山大院自然⁵九電産業)

15:45-16:00 3D20

炭素14-ウイグルマツチ法によるB-Tmを伴う白頭山の噴火年代-較正曲線に対する異常値について
○坂本稔^{1,2}・今村峯雄^{1,2}(¹国立歴史民俗博物館研究部²総合研究大学院大学文化科学研究科)

16:00-16:15 3D21

核実験起源放射性炭素を利用した年代測定(I)
○中村俊夫(名大年代測定セ)

【E会場】午後

セッションG11 現世および過去の有機物・微生物・生態系の地球化学(2)

コッピナー: 川幡穂高・奈良岡浩・山本正伸・高野淑謙

12:30-13:00 **3E11**(招待)

クロロフィルとポルフィリン: 進化, 光合成, 環境
○大河内直彦(海洋研究開発機構)

13:00-13:15 **3E12**

海洋の光合成ワールドとアーキアワールドのリンケージ仮説
○高野淑謙¹・小川奈々子¹・カ石嘉人¹・野本信也²・大河内直彦¹(¹海洋研究開発機構・²筑波大化学系)

13:15-13:30 **3E13**

海洋堆積物深部における有機物動態: アミノ酸窒素同位体組成・D/L比からの制約
○山口保彦¹・高野淑謙²・カ石嘉人²・菅寿美²・小川奈々子²・横山祐典¹・大河内直彦²(¹東大気海洋研・²海洋研究開発機構)

13:30-13:45 **3E14**

超深海堆積物におけるアンモニア酸化と脱窒
○西澤学¹・布浦拓郎¹・平井美穂¹・真壁明子²・柳川勝紀³・野牧秀隆¹・北橋倫¹・木庭啓介²・高井研¹(¹海洋研究開発機構・²東京農工大・³東京大)

<休憩> 13:45-14:00

14:00-14:15 **3E15**

南中国三峽地域のエディアカラ紀-前期カンブリア紀堆積相中の分子化石を用いた生物地球化学
○山田健太郎¹・佐々木一謹²・佐藤寿年¹・上野雄一郎¹・山田桂大³・小宮剛⁴・吉田尚弘³・丸山茂徳¹(¹東工大理工・²ヒューマン・メタボローム・テクノロジー株式会社・³東工大総理工・⁴東大総文化)

14:15-14:30 **3E16**

北海道中部、白亜系堆積物中の陸上植物由来ケロジェンの抵抗性高分子分析: 新しい古植生指標の提案
○宮田遊磨・沢田健・中村英人・池田慧(北大理)

14:30-14:45 **3E17**

中国煤山ペルム紀/三疊紀境界堆積岩のケロジェンの熱分解および熱化学分解分析
○緒方秀仁¹・沢田健¹・海保邦夫²(¹北海道大学理学院・²東北大学理学研究科)

14:45-15:00 **3E18**

南フランス, ポコンティアン堆積盆における白亜紀海洋無酸素事変(OAE) 2時の海洋生態系変動の復元
○安藤卓人¹・沢田健¹・西弘嗣²・高嶋礼詩²(¹北大理学院・²東北大総合学術博物館)

15:00-15:15 **3E19**

中部北海道, 新第三系タービダイト堆積物の陸上植物バイオマーカー分析による堆積・続成過程の評価
○風呂田郷史¹・沢田健¹・川上源太郎²(¹北海道大学理学院・²道総研地質研究所)